

# WOODY R・P 施工手順 横フェンスタイプ(アルミ支柱)

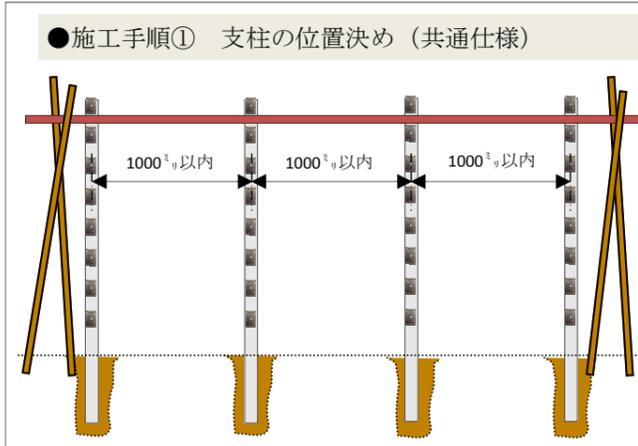
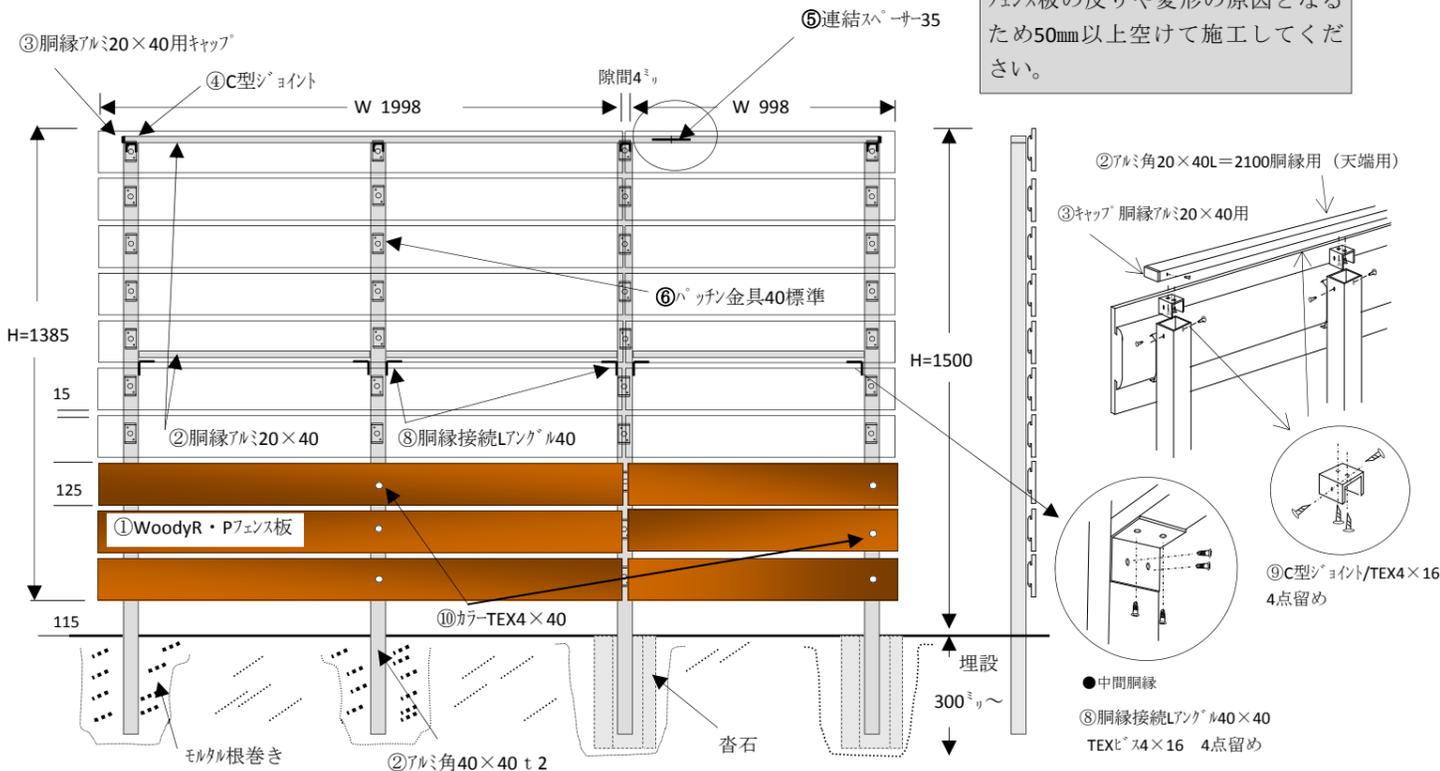
## ●WoodyR・P部品表 (塗りつぶしは使用しない部材)

番	部材形状	部材名称	サイズ・材質・用途	番	部材形状	部材名称	サイズ・材質・用途
①		Woody R・P フェンス板	125×15 L=2000 (2050) 125×15 L=3000 (3050)	⑩		カラーTEXビス 4×40	4×40 (SUS) サイドバー・横フェンス・縦フェンス用
②		支柱アルミ角材各種	アルミ角40×40t2支柱用 アルミ角70×70t2支柱用 アルミ角30×70t2胴縁用 アルミ角20×40t2胴縁用	⑪		カラーTEXビス 4×50	4×50 (SUS) 連結バー・ルーバー用
③		アルミ支柱用キャップ各種	支柱40角用・70角用 胴縁アルミ20×40用	⑫		横棧用連結バー 10×40	10×40 L=2000
④		C型ジョイント	35×35×30 t2 45×45×40 t2	⑬		パッチン金具 穴開け治具1500	40×1500× t2
⑤		横棧補強アルミ連結スペーサー	35×13× L=200	⑭		ルーバー金具 穴開け治具1500	40×1500× t2
⑥		パッチン留め金具40標準	75×40× t0.5	⑮		サイドバー 30×40	30×40 L=2000
⑦		ルーバー留め金具40	70×40× t0.5	⑯		カラー支柱	角40×40 t 1.2支柱・胴縁用 角50×50 t 1.6支柱・胴縁用
⑧		胴縁用接続Lアングル	40×40× t2 40×70× t2	⑰		カラーキャップ	カラー支柱用 40角・50角
⑨		TEXビス4×16	4×16 (SUS)	-	-	-	-

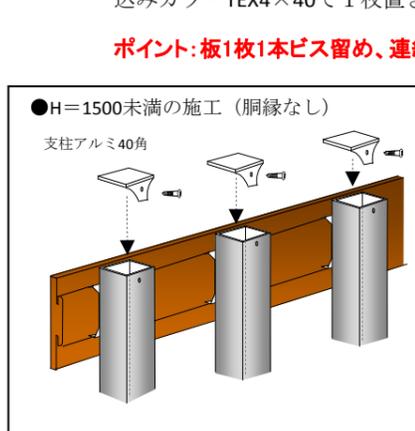
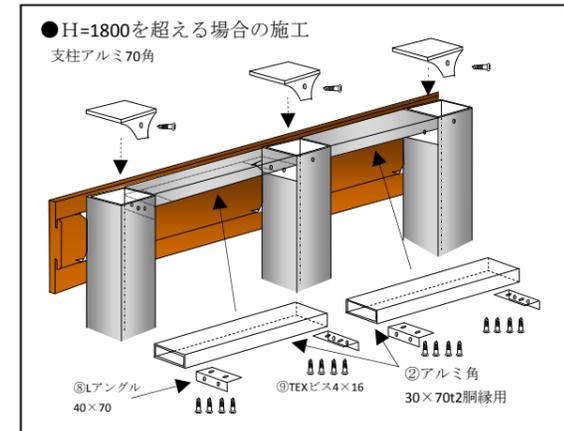
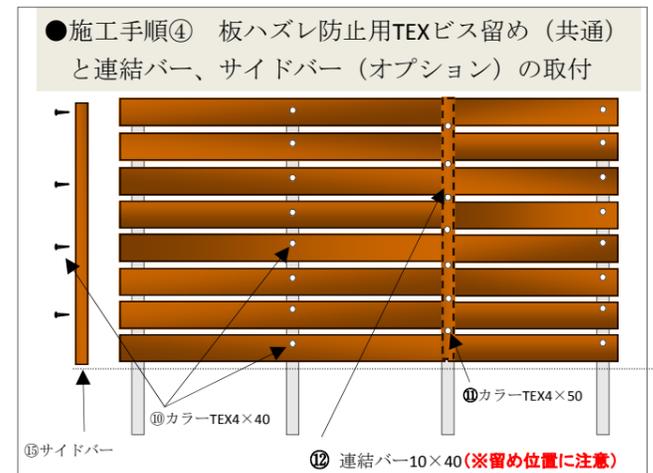
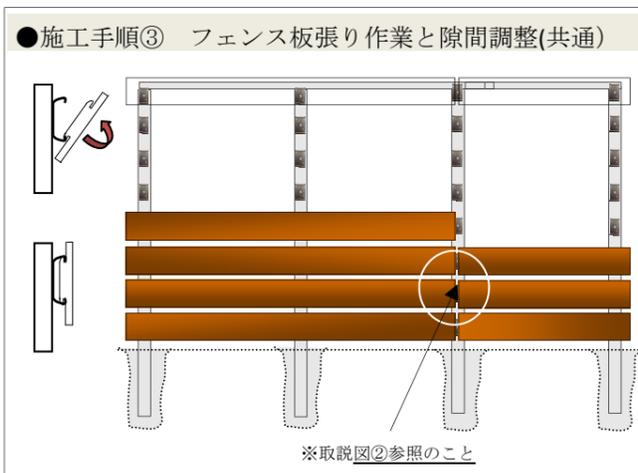
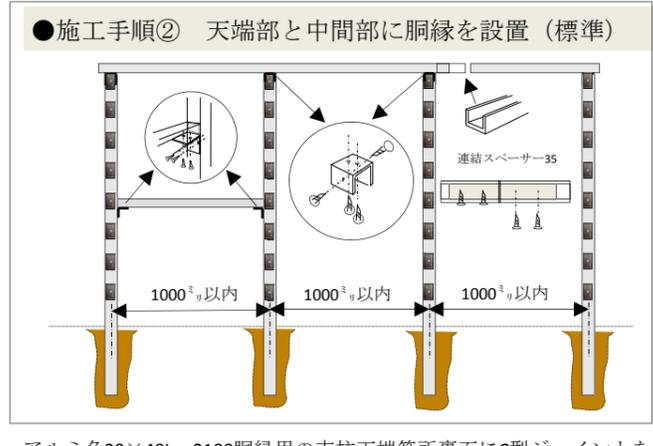
●施工前に必ず施工場所の土質と環境条件(強風の吹く場所・積雪等のある場所)等をご確認ください。

基本図面 春・秋期施工 H1500×W=3000(アルミ支柱標準仕様)

※施工時期により板隙間が異なります。取扱説明書図②参照ください。



その際、支柱天端部分を通す治具で直線出しを行うと作業効率が上がります。端部分を通す治具等で必ず直線度を出します。  
※パッチン金具は治具を使用し支柱設置前の取付を推奨します。支柱設置後に金具を取り付けることもできます。  
**ポイント:支柱ピッチ1m以内、支柱の垂直、3本以上の支柱は直線度を出す。**



# WOODY R・P フェンスの施工基準について

●参考例：W5000直線（L2000板×1列+L3000板×1列、支柱6本）

●季節ごとの隙間量：春秋期4～5mm、夏期2～3mm、冬期6～7mm ※1℃当り伸縮率 0.0757mm/m

●板留めビスは**板1枚につき1本**、連結部を除く支柱箇所にはビス留めしてください。※L3000板を使用する場合は中央部の支柱箇所のうちどちらかにビス留めします。(カラーTEX4×40)

●連結バーを取り付ける場合は、**上下の板隙間**の位置にビス留めしてください。※ビスは強く締めすぎないようにしてください。(カラーTEX4×50)

●サイドバーは上段から1段おきにビス留めする。(カラーTEXビス4×40)

●反り・変形の原因となりますので両端の支柱側面からの**板の跳ね出しは100mm以内**としてください。

●H1500以上は揺れ止め補強として、天端と中間に胴縁をいれてください。

●板と板の連結部は**支柱の中心**にくるように配置してください。

●GLから再下段の板までの空きは、フェンス板の反りや変形の原因となるため**50mm以上**空けて施工してください。

## ●支柱サイズの基準

高さ1800以下：アルミ支柱40角、カラー支柱40角  
 高さ1800超：アルミ支柱70角、カラー支柱50角  
 ※高さ1500以上は天端部補強と中間胴縁補強を入れてください。

## ●施工上のアドバイス

- ①金具取付は支柱埋設前が効率的。
- ②板の取付は下段から上段にとりつける。
- ③板の取付は金具に下溝を入れ押し下げるようにして上溝に入れる。
- ④板留め、サイドバー、連結バーのビス留めは締め付けすぎない。

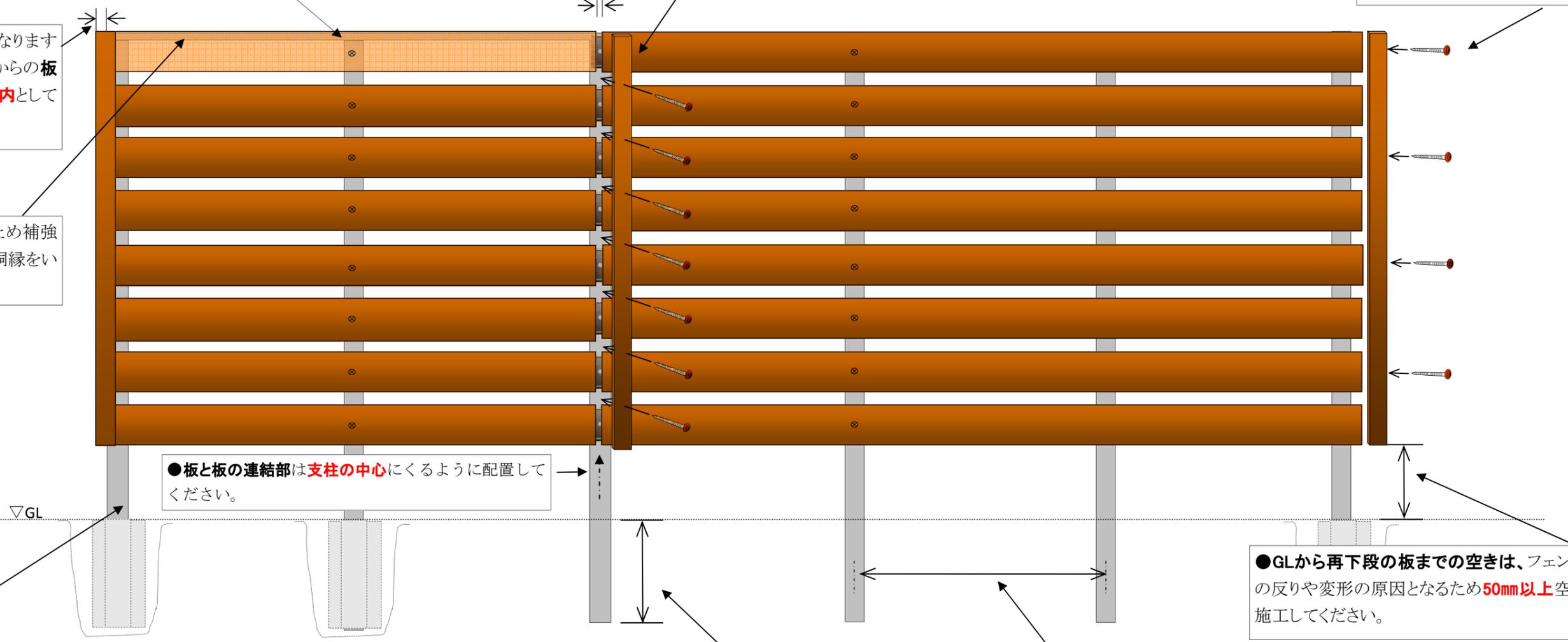
## ●フェンスの高さと支柱・埋設の基準

フェンス高さ(GLから)	埋設深さ
H1200以下	200～300 <sup>mm</sup>
H1200超～H2000以下	300～500 <sup>mm</sup>
H2000超～H2500以下	500～600 <sup>mm</sup>

●支柱ピッチは芯々で**1,000mm以内**としてください。

## ◎施工上の重要ポイント(施工前に必ずお読みください)

- ①**支柱の垂直**の確保、3本以上支柱が連続する場合は**支柱位置の直線度**を出す。
- ②支柱ピッチに合った板長さにカットし、**連結部は支柱の中心**に来るようにする。
- ③連結部は**施工時期ごとの隙間量**の確保。
- ④板はずれ防止のため**板1枚につき1本板留めビス**。
- ⑤連結バーは**上下の板隙間**にビス留め。



# WOODY R・P 取扱説明書 横フェンスタイプ

WoodyRP材の取扱に際し正しく安全に施工して頂く為、注意マークを設定しました。

特に注意すべき内容 禁止 してはいけないこと アドバイス

## ●施工前の準備と確認

※WoodyRPフェンス材は外気の温度変化により伸縮する素材です。

### ①色相について

WoodyRPフェンス材は、再生原料を使用しています。そのために、板本体は天然木と同様に色相の濃淡があります。施工時には、板の配色バランスを見ながらの配置・設置をお願いします。

### ②養生について

施工時に、フェンス材を日なたに放置しておきますと反りの原因になります。必ず日陰での保管と共に養生しながらの施工をお願いします。特に夏期施工時における施工中の板の保管にはご注意ください。またフェンス材は高熱と溶剤に耐性がありません。**高温を発生させるものや溶剤(強酸・強アルカリ薬品類等)には不用意に接触させないでください。**

### ③梱包開封について

フェンス材を梱包から取り出す時の横からの引き抜きは厳禁です。横からの引き抜きは板表面にキズを付けます。必ず**全開封取出し**を実行してください。

### ④製品特性について

WoodyRPは再生原料を使用した発泡ポリスチレン樹脂製品です。アルミやその他の金属とは異なりプラスチック素材の為に硬さは柔らかい分類に属します。配送や材料移動、切断加工、ビス打ち、施工の前後等、特に細心の注意を払い作業をお願いします。

### ⑤フェンス板とパッチン金具のはめ合いについて

WoodyR・P本体板は太陽光のあたる面側に熱膨張が発生し伸びる性質があります。外気温の変化によって側面から見ると板が反った状態が発生致しますが、外気温が下がると元に戻ります。パッチン金具とフェンス板の平行度が欠けるとはめ合いがキツくなり、放置すると板の反りや変形の原因になります。施工時に必ず金具溝とフェンス板のはめ合いを調整してビス留め箇所以外の金具の溝と本体はスライド可能な状態をつくるようにして下さい。

### ⑥支柱ピッチについて

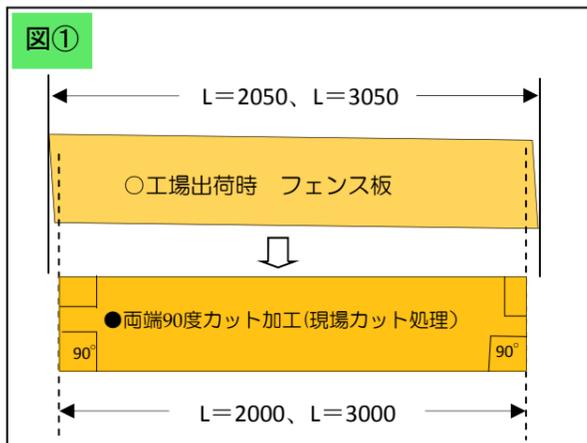
フェンスの支柱間の間隔(ピッチ)は、**芯々で1000mm以内にて配置してください。**フェンス板はプラスチック樹脂製ですので、柔らかく1000mmを超える支柱ピッチでの設計施工には適しません。反り・変形の原因になります。**フェンス板は支柱ピッチに合わせてサイズを決めカットしてください。板と板の連結部は支柱の中心にくるように調整してください。**

### ⑦フェンス板のカットとカラー支柱のカットについて

フェンス板の工場出荷時は下記図①のようにL=2000の場合2050mm、L=3000の場合3050mmの切りしろを付けた状態になっており、切断面の直角は出しておりません。**施工時に90度にカット**してご使用ください。

切断には**スライド丸のこ**かバンドソー(帯ノコ)が適しています。**丸刃は木工用の縦引きタイプの刃**で綺麗に切れます。フェンス板の小口処理は、溶剤系(シンナー)を塗布するか、水性スプレーペイントの類似色にて塗布しますと皮膜ができ表層色に近くなり綺麗な仕上がりになります。

カラー支柱の切断は鉄用チップソーが適しています。ダイヤモンドカッター、切断砥石は適しません。



#### ●切断道具・刃の選択

**○** バンドソー **○** アルミ用チップソー **○** スライドマルノコ **○** 木工用タテ引き用

**×** (不明な道具) **×** (不明な道具)

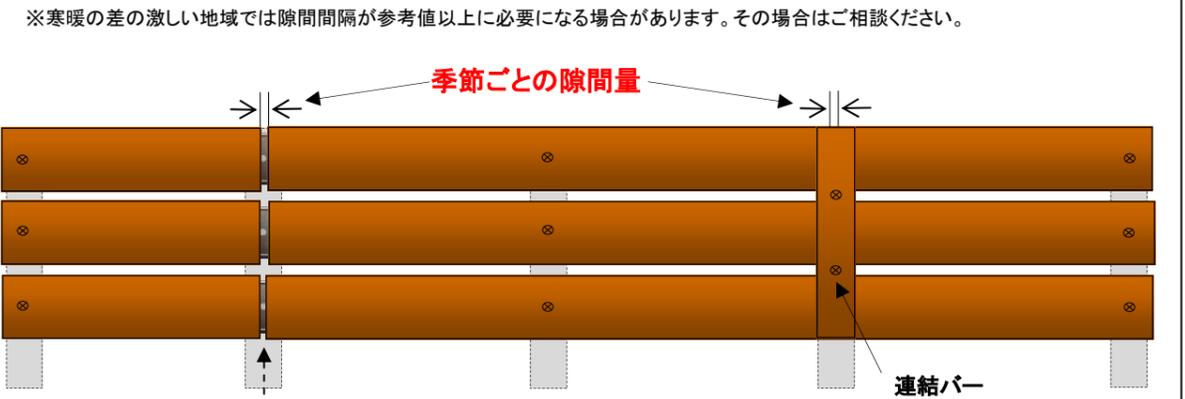
#### ●フェンス板 小口処理

**○** シンナー液塗布 **○** 水性スプレー塗布 (類似色)

## ⑧連結部の隙間目地の必要性和施工上の基準値

WoodyRPフェンスは、夏場の高温時には熱膨張により反りが発生することがありますが製品に異常はありません。長手方向は、夏季の高温と冬季の低温により線膨張(熱膨張と伸縮)が起こります。フェンス板を長手方向に連結する場合、必ず隙間目地として季節ごとの隙間量をとって施工してください。

### 図② 季節ごとの隙間量: 春秋期4~5mm、夏期2~3mm、冬期6~7mm ※1℃当り伸縮率 0.0757mm/m



●連結部は柱の中心に来るようにしてください。 ※中心からずれるとかがりがあまいフェンス板は外れやすくなります。

●上下のフェンス板の隙間にビス留めしてください。

#### ●支柱サイズの基準

高さ1800以下: アルミ支柱40角、カラー支柱40角  
高さ1800超: アルミ支柱70角、カラー支柱50角  
※高さ1500以上は天端部補強と中間胴縁補強を入れてください。

#### ●GLから板までの空きは50mm以上

フェンス板の反りや変形の原因となるため**50mm以上**空けて施工してください。

#### ●フェンス板の跳ね出し 反り・変形の原因となりますので両端の支柱からの板の跳ね出しは**100mm以内**としてください。

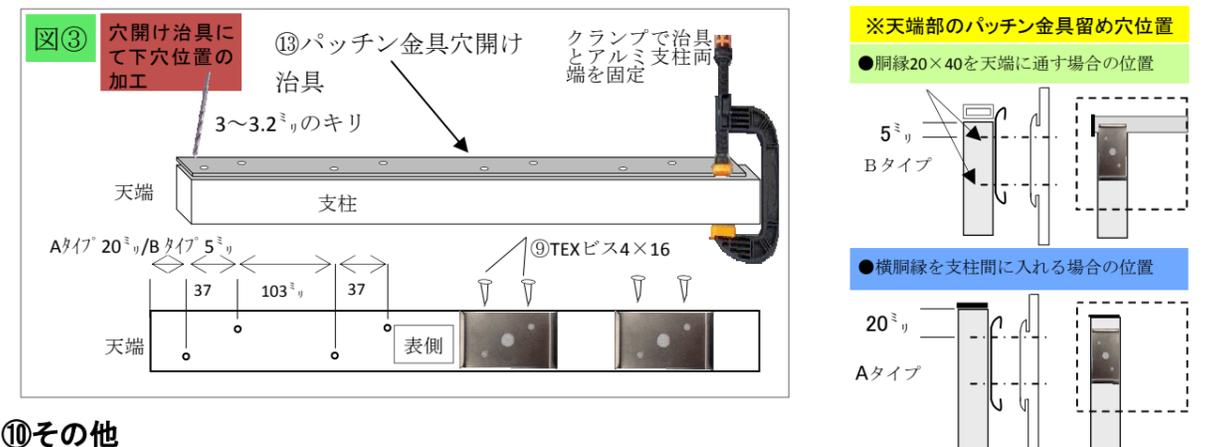
#### ●フェンスの高さと支柱・埋設の基準

フェンス高さ(GLから)	埋設深さ
H1200以下	200~300mm
H1200~H2000	300~500mm
H2000~H2500	500~600mm

## ⑨パッチン金具穴あけ治具について

WoodyR・P専用の穴開け治具(オプション)を使用する際は、下図③のようにアルミ支柱天端部と穴開け治具の天端を正確に合わせクランプで穴開け治具と支柱を固定します。その後3~3.2mmのキリを用いて穴位置に下穴を開けます。金具取付は支柱のモルタル根巻き施工前の取付を推奨します。

図③のパッチン金具取付位置は板隙間15mmが基準です。その他の板隙間の場合は、特注の穴開け治具が必要になります。特注の穴開け治具は別途承ります。板隙間をご指定ください。

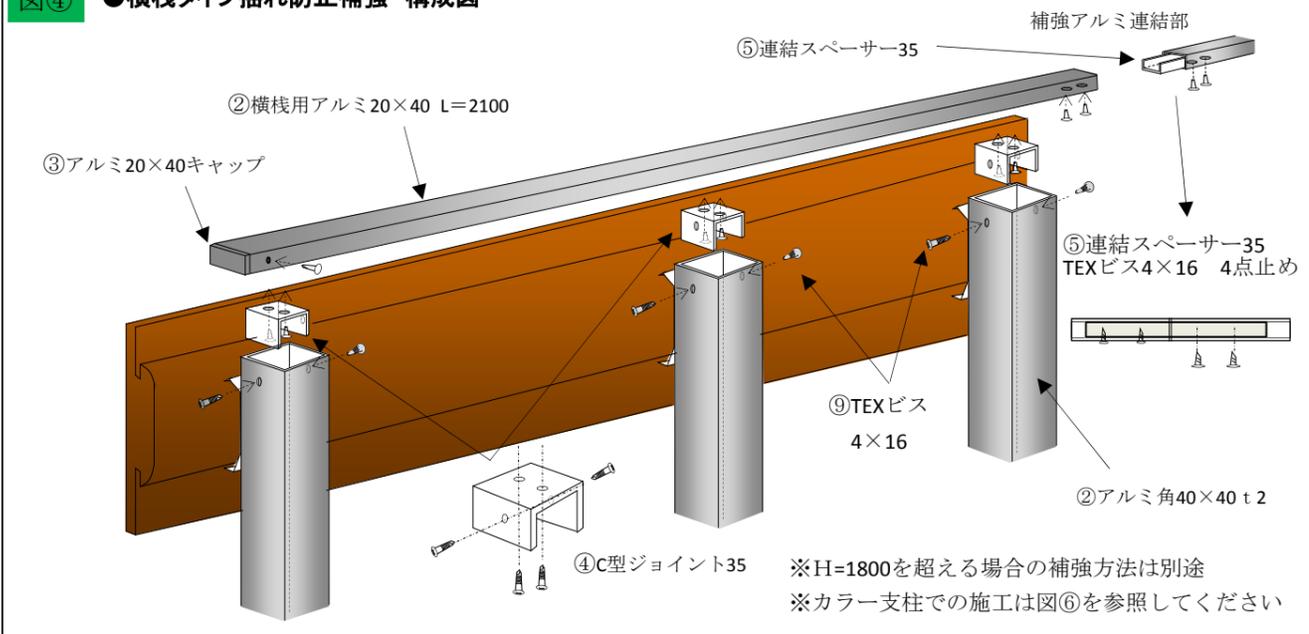


## ⑩その他

弊社では日々製品品質の向上には努力しておりますが、製品受領時(数量確認)と施工前の梱包開封時に必ず品質確認を実施してください。不具合を黙認しての施工終了後の保証はできません。ご注意ください。製品改善の為、予告なしに仕様変更することがあります。ご了承ください。

# WOODY R・P 取扱説明書 横フェンスタイプ

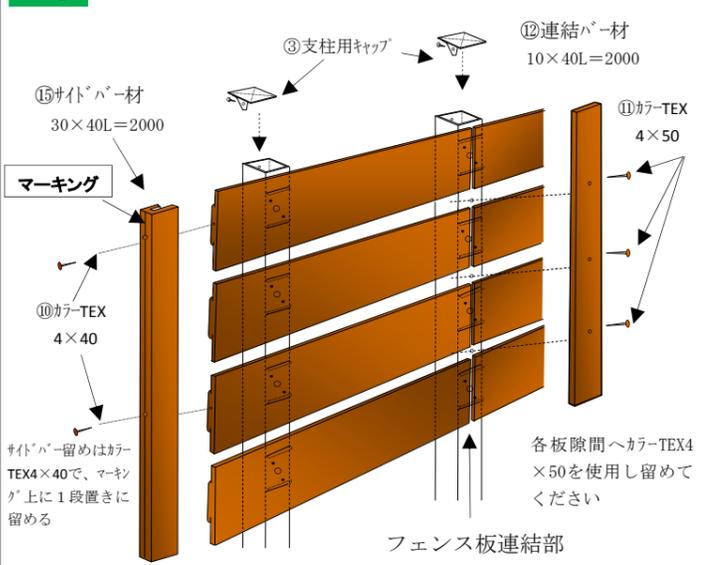
図④ ●横棧タイプ揺れ防止補強 構成図



⑪強風場所の揺れ止め補強

強風の吹く場所への設置は、本体の揺れ止め対策としてフェンス天端部に上図④のような揺れ防止補強材を必ず使用し補強を施してください。※H1500以上の横フェンスの場合には、揺れ止め補強は必須です。高さH1800を超える横フェンスを強風の吹く場所や冬季積雪がある場所へ施工する場合には、アルミの70角支柱（カラー支柱50角）にて施工してください。フェンス板ハズレ防止対策としてフェンス板1枚につきカラーTEX4×40を1本連結部以外の支柱に打ってください。

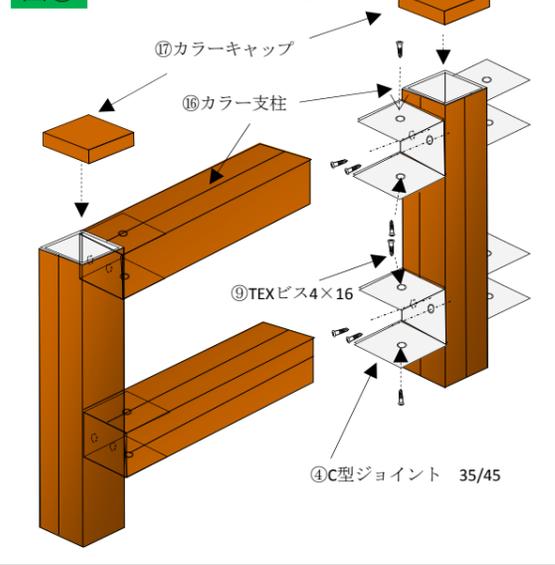
図⑤ ●オプション:連結バー材・サイドバー材



⑫オプション(連結バー・サイドバー)の取付

連結バー10×40の取付方法は図⑤に示す位置で、カラーTEXビス4×50を正面から連結バー、アルミ支柱と上下の板隙間へ打ちます、強く留め過ぎるとフェンス板の伸縮をさまたげる為に、フェンス板が伸びた時にたわみを発生させる場合があります。サイドバー30×40の取付方法は図⑤のように、マーキング上からカラーTEX4×40をフェンス板1枚置きにフェンス板側へ打ちます。

図⑥ ●カラー支柱・胴縁施工略図



⑬カラー支柱の胴縁の固定

カラー支柱用の胴縁はカラー支柱と同じ材を使用します。図⑥のように支柱側に取り付けられたC型ジョイントに胴縁用カラー支柱を差し込んだのち、上下方向から一カ所ずつTEXビス4×16で固定します。

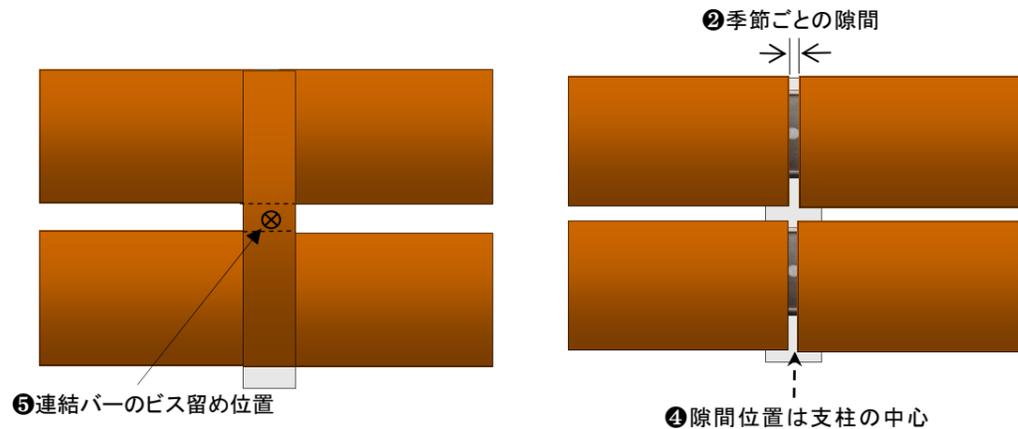
※キャップのかぶりを考慮して胴縁位置を決めてください。  
 ※カラー支柱の切断後は必ずバリ取りを行ってください。  
 ※ビス留めの際の切粉が錆びる場合があります。切粉はきれいに取り除いてください。

⑫強風の吹く設置場所・積雪の多い設置場所での追加補強について

強風の設置場所・積雪の多い設置場所の追加補強については、以下の対策を施してください。①支柱ピッチを基準値（1,000mm以内）より短くする（例；500～800mm）。②胴縁を入れるかもしくは増やす（H1500未満でも胴縁を入れたり、H1500以上でも3～4段入れる）。③支柱サイズを太くする（H1800以下は通常40角ですが、50～70角とする）。④支柱の埋設を基準値以上にする。⑤控柱を設置する。⑥独立基礎を避ける。以上複数の項目を検討し施工してください。

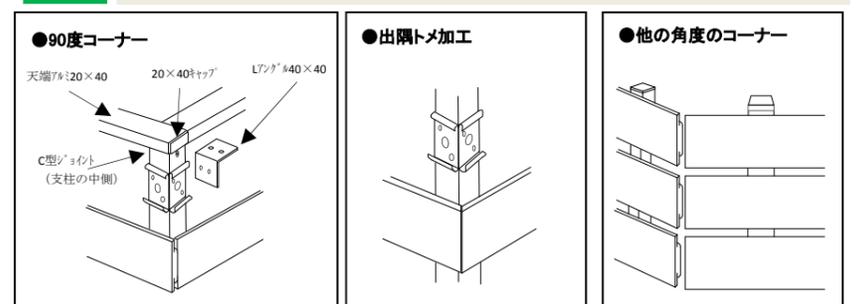
⑬板の反り・変形、金具からの板はずれ、その他施工不具合を防ぐためのポイント

- ①支柱の垂直を確保する、支柱が3本以上となる場合は支柱位置の直線度を出す。
- ②施工時期ごとの隙間を空ける（春秋4～5mm、夏期2～3mm、冬期6～7mm）。
- ③板1枚につき1本板留めビスで留める。
- ④支柱ピッチに適した板長さにカットし連結部は支柱の中心にくるようにする。
- ⑤連結バーは上下の板隙間の位置にビス留めする。



⑬カラー支柱の芯材は溶融亜鉛メッキ鋼管で防錆処理してありますが、ビス留めの際にでる切粉が錆びる可能性があります。ビス留め時にした切粉はきれいに除去してください。

図⑦ ●コーナー処理について

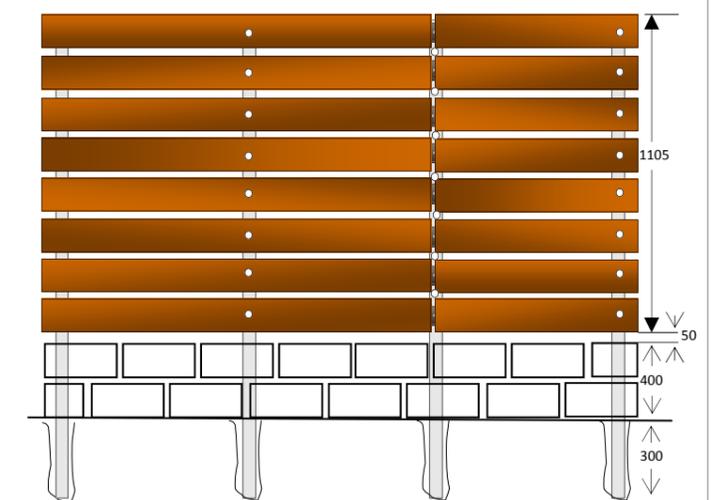


⑬ブロック上への施工の場合

※スタンダードタイプの空洞ブロック穴に埋め込み、フェンスを施工する場合、ブロック高さを高め、高さでH1500以内の施工が基準です。

※下記、図のようにアルミ支柱40角が使用できますが、柱ピッチが1m以内の間隔の為に、途中コア抜き作業が発生します。ブロック穴を利用した施工は、高さにより布基礎に根入れを施す必要が出てきます。ご注意ください。

※ブロックに縦横と鉄筋が入り強度が保てる場合は、推奨埋設の深さとなります。



# WOODY R・P 施工手順 横フェンスタイプ(カラー支柱)

## ●WoodyR・P部品表 (塗りつぶしは使用しない部材)

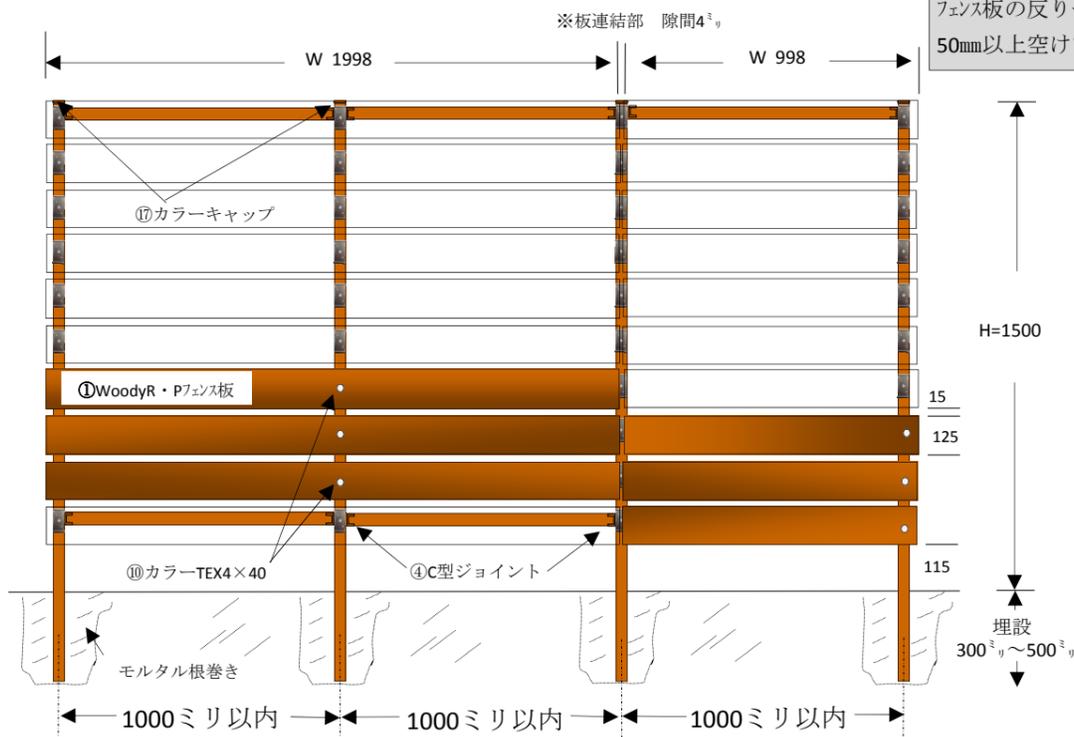
番	部材形状	部材名称	サイズ・材質・用途	番	部材形状	部材名称	サイズ・材質・用途
①		Woody R・P フェンス板	125×15 L=2000 (2050) 125×15 L=3000 (3050)	⑩		カラー-TEXビス 4×40 (SUS) サイドバー・横フェンス・縦フェンス用	4×40 (SUS) サイドバー・横フェンス・縦フェンス用
②		支柱アルミ 角材各種	アルミ角40×h 支柱用 アルミ角30×70t2 胴縁用 アルミ角20×40t2 胴縁用	⑪		カラー-TEXビス 4×50 (SUS) 連結バー・ルーバー用	4×50 (SUS) 連結バー・ルーバー用
③		アルミ支柱用 キャップ各種	支柱40角用・70角用 胴縁アルミ20×40用	⑫		横横用連結バー 10×40	10×40 L=2000
④		C型ジョイント	35×35×30 t2 45×45×40 t2	⑬		パッチン金具 穴開け治具1500	40×1500×t2
⑤		横横補強アルミ 連結バー	35×13×L=200	⑭		ルーバー金具 穴開け治具1500	40×1500×t2
⑥		パッチン留め 金具40標準	75×40×t0.5	⑮		サイドバー 30×40	30×40 L=2000
⑦		ルーバー留め 金具40	70×40×t0.5	⑯		カラー支柱 角40×40 t1.2 支柱 角50×50 t1.6 支柱	角40×40 t1.2 支柱 角50×50 t1.6 支柱
⑧		胴縁用接続 Lアングル	40×40×t2 40×70×t2	⑰		カラーキャップ カラー支柱用 40角・50角	カラー支柱用 40角・50角
⑨		TEXビス4×16	4×16 (SUS)	-	-	-	-

●施工前に必ず施工場所の土質と環境条件(強風の吹く場所・積雪等のある場所)等をご確認ください。

基本図面 春・秋期施工 H1500×W=3000 10段 板隙間15mm (カラー支柱仕様)

※施工時期により板隙間が異なります。取扱説明書②参照ください。

●GLから板までの空きは50mm以上  
フェンス板の反りや変形の原因となるため  
50mm以上空けて施工してください。

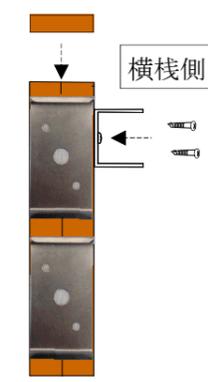


### ●施工手順① C型ジョイント取付方法

ポイント

- ①上段の胴縁や最上段の金具はカラーキャップのかぶりを考慮して位置決めしてください。
- ②ビス留めの際に出る切粉が錆びる場合があります。切粉はきれいに取り除いてください。
- ③カラーキャップは市販の接着剤で固定してください。

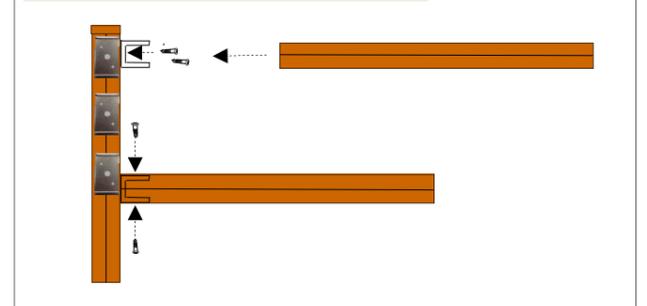
※H1500未満は胴縁を設置しません。



カラー支柱3面にラインが入っています。図の様にキャップを接着剤で固定した後ライン面へパッチン金具、C型ジョイントをTEXビス4×16にて固定してください。

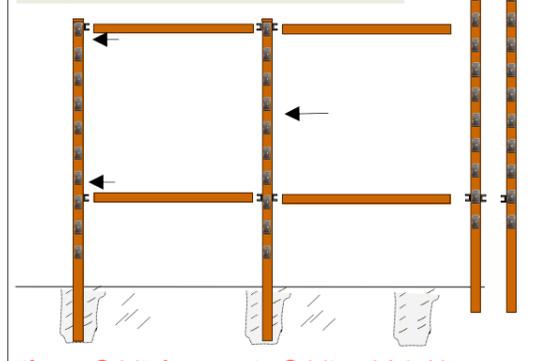
※支柱4面にビスを使用する場合、支柱センターを避けビス留め施工してください。

### ●施工手順② 横胴縁の固定方法



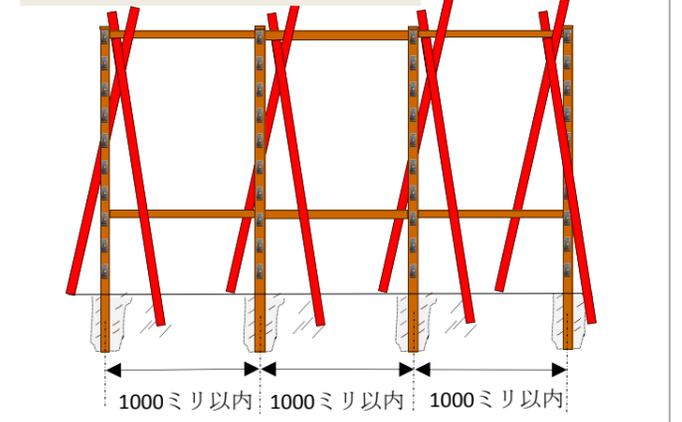
カラー支柱と胴縁固定はC型ジョイントで接続します。支柱側へTEXビス4×16を2本でC型ジョイントを固定、次に胴縁用カラー支柱を差し込みTEXビス4×16を上下2カ所へ1本ずつ打ち固定ください。

### ●施工手順③ 支柱の位置決め



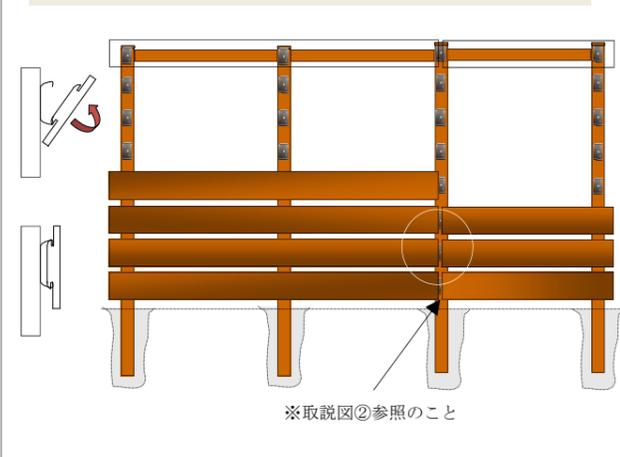
ポイント:①支柱ピッチ1m以内、②支柱の垂直を確保  
③3本以上の支柱は直線度を出す。

### ●施工手順④ 支柱と胴縁の設置



カラー支柱の設置間隔(スパン)は芯々で1m以内に収まるように支柱の埋設位置を決定します。次に水平器にて支柱の垂直、水平を出した後に支柱と胴縁を接続しモルタル寝巻きにて支柱を固定します。※2段目の胴縁は下方向ほど胴縁がはめにくくなります。フェンス高さの中間の位置を目安に設置してください。ポイント:①支柱ピッチ1m以内、②支柱の垂直を確保、③3本以上の支柱は直線度を出す。

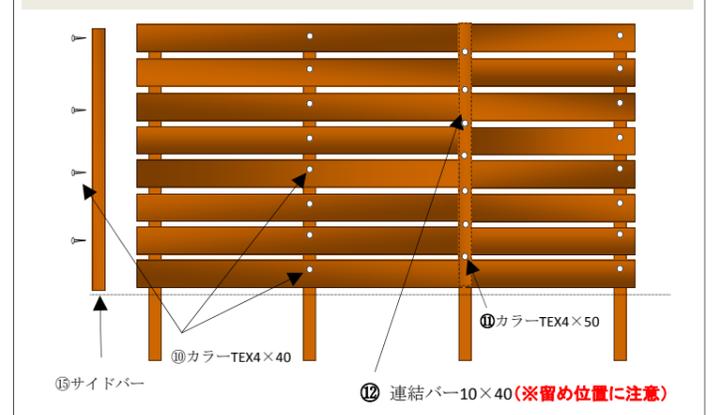
### ●施工手順⑤ フェンス板張り作業と隙間調整



フェンス板を任意の寸法に切断し、パッチン金具下溝に合わせ板を下方に押し込むように“パチン”とはめ込みます。連結部分は取扱説明書②を参照して隙間調整を行います。

ポイント:①板と板の連結部は支柱の中心に来るように位置決め、②施工時期ごとの隙間量の調整、③フェンス板は下段から上へ順番に取付。

### ●施工手順⑥ 板ハズレ防止用TEXビス留めと連結バー・サイドバー (オプション) の取付



板ハズレ防止用のカラー-TEXビス4×40を板1枚に1本連結部以外の支柱箇所にて留めます。オプションの取付: 連結バーは連結部に取り付け各フェンス板隙間へカラー-TEX4×50で留めます(強く留め過ぎるとフェンス板が伸縮できなくなるのでご注意ください)。サイドバーはフェンス板の端部へはめ込みカラー-TEX4×40で1枚置きにマーキング上より留めます。ポイント:板1枚1本ビス留め、連結バーのビス留め位置に注意

# WOODY R・P フェンスの施工基準について

※取扱説明書は横フェンスアルミ支柱用の3/4と4/4を参照してください。

●参考例：W5000直線（L2000板×1列+L3000板×1列、カラー支柱6本）

●季節ごとの隙間量：春秋期4～5mm、夏期2～3mm、冬期6～7mm ※1℃当り伸縮率 0.0757mm/m

●板留めビスは**板1枚につき1本**、連結部を除く支柱箇所にはビス留めしてください。※L3000板を使用する場合は中央部の支柱箇所のうちどちらかにビス留めします。(カラーTEX4×40)

●連結バーを取り付ける場合は、**上下の板隙間**の位置にビス留めしてください。

※ビスは強く締めすぎないようにしてください。(カラーTEX4×50)

●サイドバーは上段から1段おきにビス留めする。(カラーTEXビス4×40)

●反り・変形の原因となりますので両端の支柱側面からの**板の跳ね出しは100mm以内**としてください。

●H1500以上は揺れ止め補強として、上段と中間に胴縁をいれてください。上段の胴縁はキャップのかぶりを考慮して位置決めしてください。

●板と板の連結部は**支柱の中心**にくるように配置してください。

●GLから再下段の板までの空きは、フェンス板の反りや変形の原因となるため**50mm以上**空けて施工してください。

## ●支柱サイズの基準

高さ1800以下：アルミ支柱40角、カラー支柱40角  
 高さ1800超：アルミ支柱70角、カラー支柱50角  
 ※高さ1500以上は天端部補強と中間胴縁補強を入れてください。

## ●施工上のアドバイス

- ①上段の胴縁の取付、最上段の金具の取付は、カラーキャップを取り付けて位置決めしてください。
- ②カラーキャップは市販の接着剤で固定してください。
- ③ビス留め時に出る切粉が錆びる場合がありますので、きれいに取り除いてください。

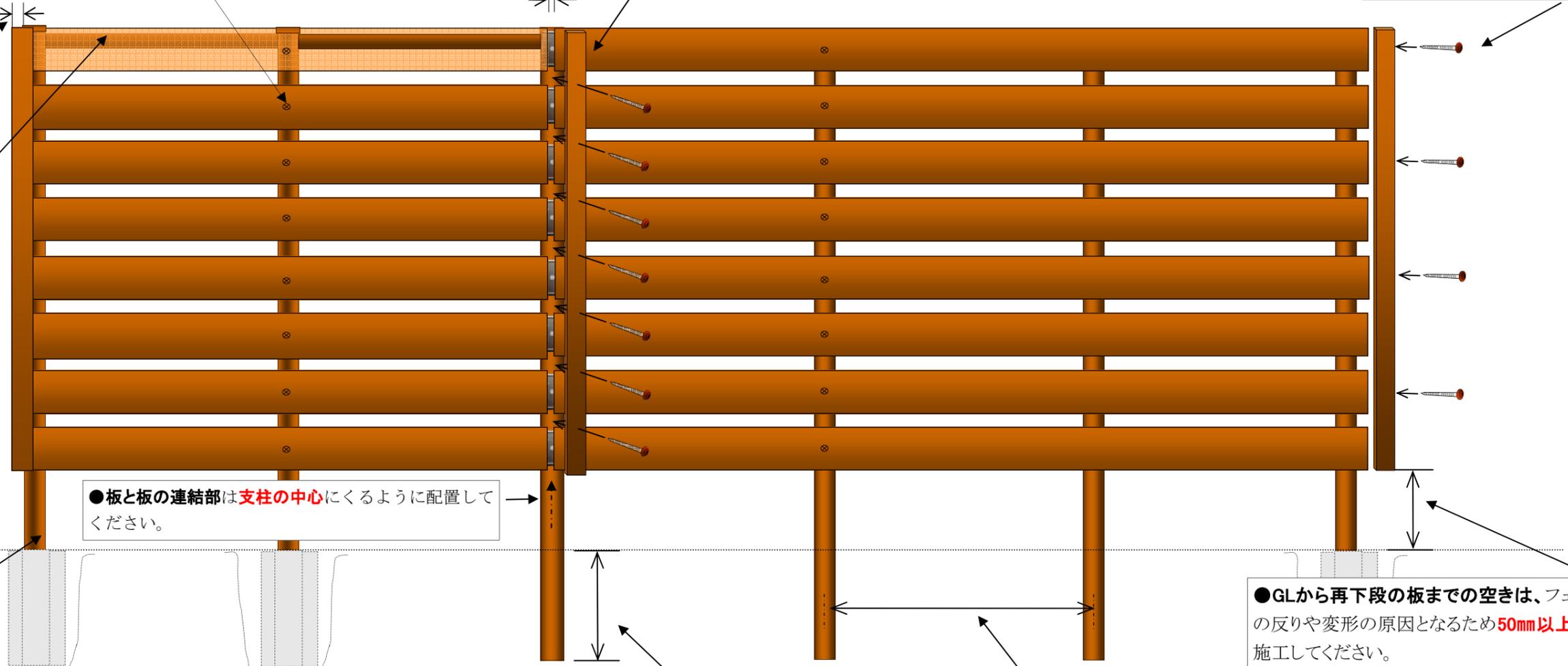
## ●フェンスの高さと支柱・埋設の基準

フェンス高さ(GLから)	埋設深さ
H1200以下	200～300 <sup>mm</sup>
H1200超～H2000以下	300～500 <sup>mm</sup>
H2000超～H2500以下	500～600 <sup>mm</sup>

●支柱ピッチは芯々で**1,000mm以内**としてください。

## ◎施工上の重要ポイント(施工前に必ずお読みください)

- ①**支柱の垂直**の確保、3本以上支柱が連続する場合は**支柱位置の直線度**を出す。
- ②支柱ピッチに合った板長さにカットし、**連結部は支柱の中心**に来るようにする。
- ③連結部は**施工時期ごとの隙間量**の確保。
- ④板はずれ防止のため**板1枚につき1本板留め**ビス。
- ⑤連結バーは**上下の板隙間**の位置にビス留め。
- ⑥カラー支柱の芯材は溶融亜鉛メッキ鋼管として防錆処理してありますが、ビス留めの際に出る**切粉が錆びることあります**。ビス留め時に出た切粉はきれいに取り除いてください。



# WOODY R・P 施工手順 横ルーバータイプ(アルミ支柱)

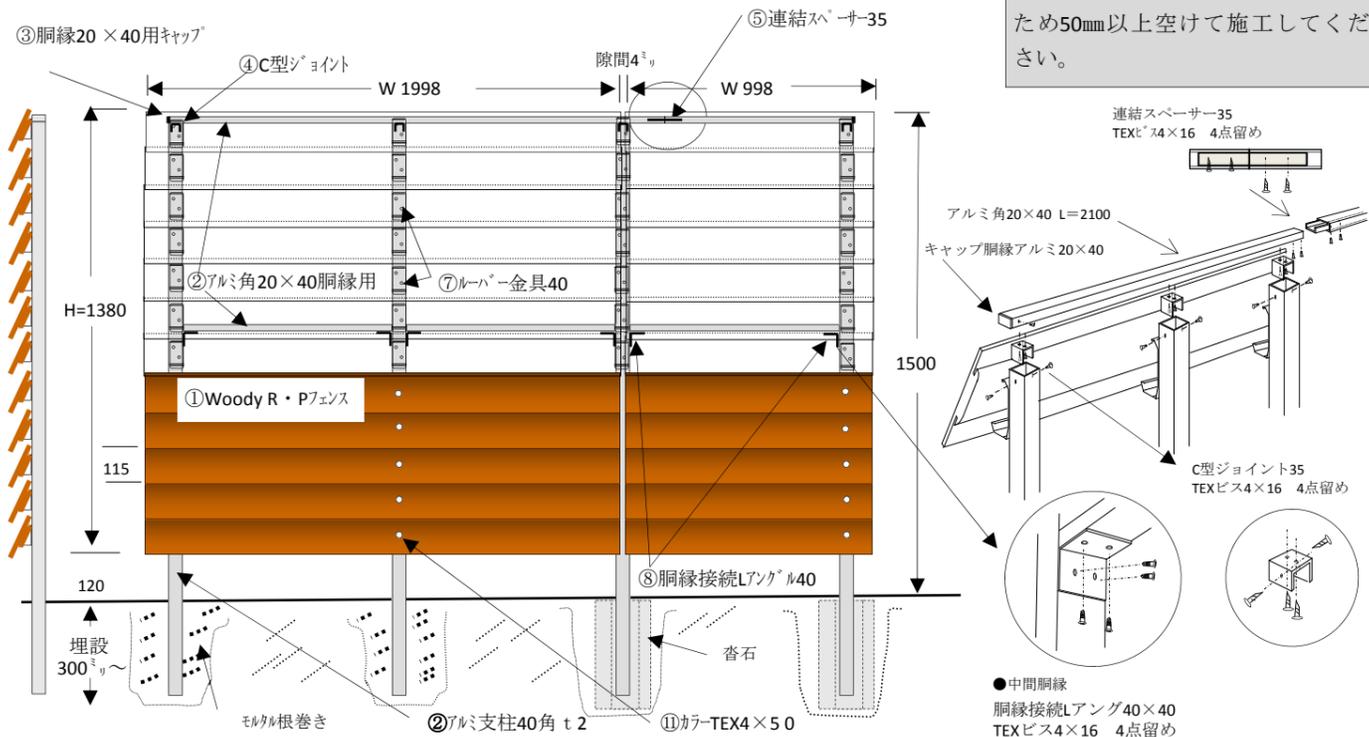
## ●Woody R・P部品表 (塗りつぶしは使用しない部材)

番	部材形状	部材名称	サイズ・材質・用途	番	部材形状	部材名称	サイズ・材質・用途
①		Woody R・P フェンス板	125×15 L=2000 (2050) 125×15 L=3000 (3050)	⑩		カラーTEXビス 4×40	4×40 (SUS) サイドバー・横フェンス・縦フェンス用
②		支柱アルミ 角材各種	アルミ角40×40t2支柱用 アルミ角70×70t2支柱用 アルミ角30×70t2胴縁用 アルミ角20×40t2胴縁用	⑪		カラーTEXビス 4×50	4×50 (SUS) 連結バー・ルーバー用
③		アルミ支柱用 キャップ各種	支柱40角用・70角用 胴縁アルミ20×40用	⑫		横管用連結バー 10×40	10×40 L=2000
④		C型ジョイント	35×35×30 t2 45×45×40 t2	⑬		パッチン金具 穴開け治具1500	40×1500× t2
⑤		横管補強アルミ 連結バー	35×13× L200	⑭		ルーバー金具 穴開け治具1500	40×1500× t2
⑥		パッチン留め 金具40標準	75×40× t0.5	⑮		サイドバー 30×40	30×40 L=2000
⑦		ルーバー留め 金具40	70×40× t0.5	⑯		カラー支柱	角40×40 t1.2支柱・胴縁用 角50×50 t1.6支柱・胴縁用
⑧		胴縁用接続 Lアングル	40×40× t2 40×70× t2	⑰		カラーキャップ	カラー支柱用 40角・50角
⑨		TEXビス4×16	4×16 (SUS)	-	-	-	-

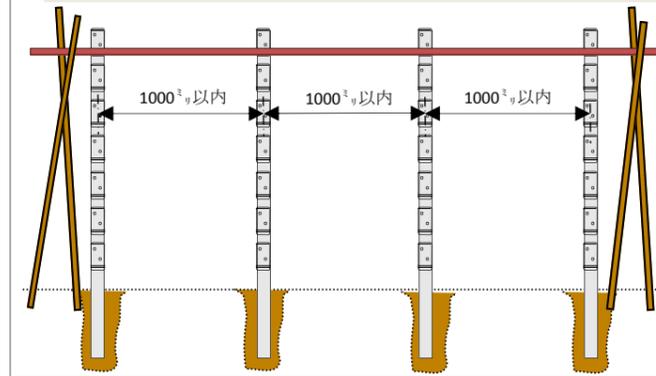
●施工前に必ず施工場所の土質と環境条件(強風の吹く場所・積雪等のある場所)等をご確認ください。

### 基本図面 春・秋期施工 H1500×W=3000(アルミ支柱標準仕様)

※施工時期により板隙間が異なります。取扱説明書図②参照ください。



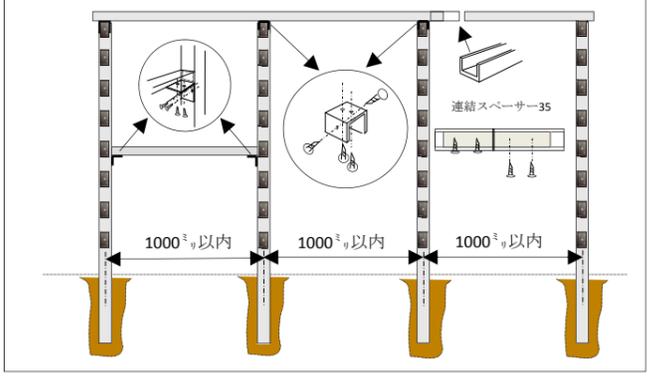
### ●施工手順① 支柱の位置決め (共通仕様)



アルミ支柱の設置間隔(スパン)が**必ず1m以内**に収まるように支柱の埋設位置を決定します。次に水平器にて支柱の垂直、水平を出した後にモルタル寝巻きにて支柱を固定します。その際、支柱天端部分を通す治具で直線出しを行うと作業効率が上がります。端部分を通す治具等で必ず直線度を出します。  
※パッチン金具は治具を使用し支柱設置前の取付を推奨します。支柱設置後に金具を取り付けることもできます。

**ポイント: 支柱ピッチ1m以内、支柱の垂直、3本以上の支柱は直線度を出す。**

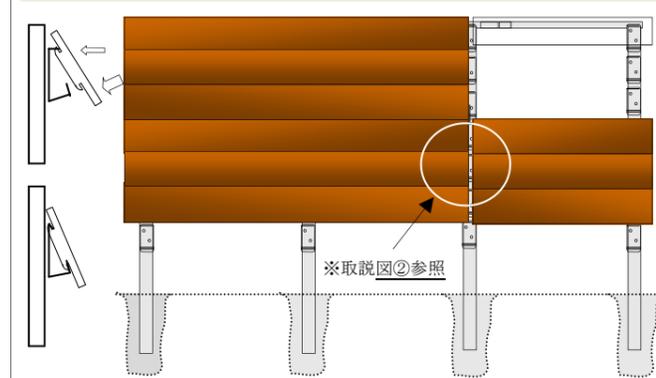
### ●施工手順② 天端部と中間部に胴縁を設置 (標準)



アルミ角20×40L=2100胴縁用の支柱天端箇所裏面にC型ジョイントを使い、支柱位置を確定し下面より縦方向にTEXビス2点で留めます。次にジョイントをアルミ40角内側に挿入しTEXビスにて左右各1点づつ留めます。延長が必要な場合、連結スペーサー35×13を半分挿入し、下面の横方向に2点TEXビス留めし、次の胴縁アルミを挿入し同様に下面から2点ビス留めします。その後、アルミ20×40用キャップを左右両端に留めます。

中間胴縁はアルミ角20×40胴縁用を支柱間の長さでカットし、Lアングルにて下面から2点と支柱側2点をビス留めし固定します。

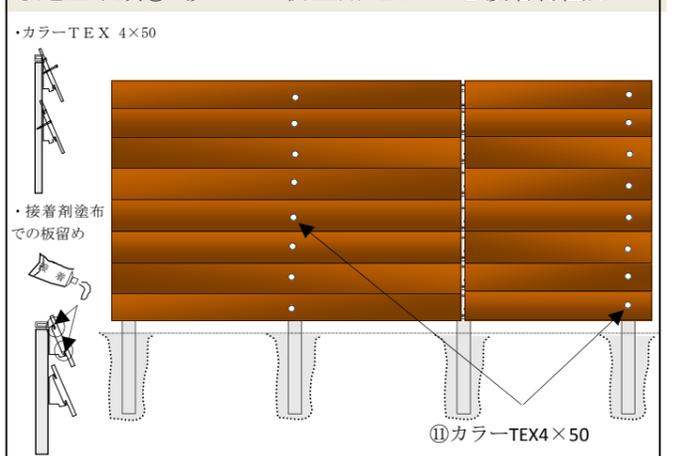
### ●施工手順③ 板張り作業と隙間調整 (共通)



フェンス板を任意の寸法に切断し、ルーバー金具上溝に合わせ板を上方に押し込むように“パチン”とはめ込みます。連結部分は取扱説明書図②を参照して隙間調整を行います。

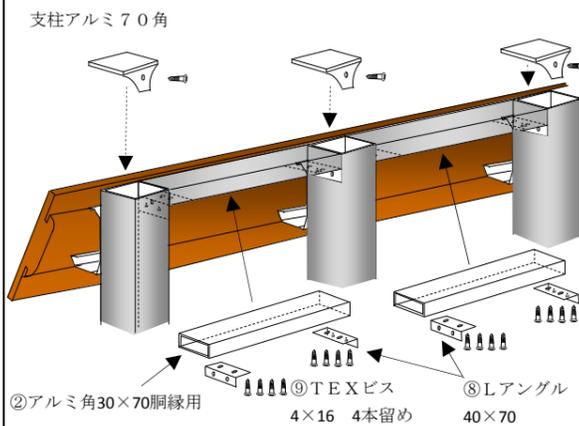
**ポイント: ①板と板の連結部は支柱の中心に来るように位置決め、②施工時期ごとの隙間量の調整、③フェンス板は下段から上へ順番に取付。**

### ●施工手順④ 板ハズレ防止用TEXビスと接着剤固定

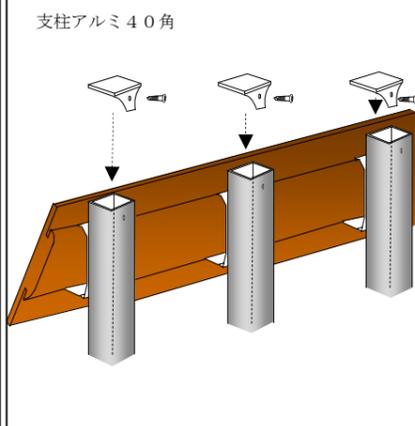


板ハズレ留め用のカラーTEXビス4×50を板1枚に1本連結部以外の支柱箇所留めるか、または、ルーバー金具の裏溝に(金属+プラスチック用)接着剤を付け固定します。

### ●H=1800を超える施工



### ●H=1500未満の施工



#### ●支柱の基準

- 高さ1800以下  
アルミ支柱40角、カラー支柱40角
- 高さ1800超  
アルミ支柱70角、カラー支柱50角

※高さ1500以上は天端部補強と中間胴縁補強を入れてください。

# WOODY R・P フェンスの施工基準について

●参考例：W5000直線（L2000板×1列+L3000板×1列、支柱6本）

●季節ごとの隙間量：春秋期4～5mm、夏期2～3mm、冬期6～7mm

※1℃当り伸縮率 0.0757mm/m

●板留めビスは**板1枚につき1本**、連結部を除く支柱箇所ビス留めしてください。  
※L3000板を使用する場合は中央部の支柱箇所のうちどちらかにビス留めします。  
(カラーTEX4×40)

※金具の裏溝と板の接合部に接着剤で固定する方法もあります。

●サイドバーは上段から1段おきにビス留めする。(カラーTEXビス4×40)

●反り・変形の原因となりますので両端の支柱側面からの**板の跳ね出しは100mm以内**としてください。

●H1500以上は揺れ止め補強として、天端と中間に胴縁をいれてください。

●板と板の連結部は**支柱の中心**にくるように配置してください。

●GLから再下段の板までの空きは、フェンス板の反りや変形の原因となるため**50mm以上**空けて施工してください。

## ●支柱サイズの基準

高さ1800以下：アルミ支柱40角、カラー支柱40角

高さ1800超：アルミ支柱70角、カラー支柱50角

## ●施工上のアドバイス

①金具取付は支柱埋設前が効率的。

②板の取付は下段から上段にとりつける。

③板の取付は金具に下溝を入れ押し下げようにして上溝に入れる。

## ●フェンスの高さと支柱・埋設の基準

フェンス高さ(GLから)	埋設深さ
H1200以下	200～300 <sup>mm</sup>
H1200超～H2000以下	300～500 <sup>mm</sup>
H2000超～H2500以下	500～600 <sup>mm</sup>

●支柱ピッチは芯々で**1,000mm以内**としてください。

## ◎施工上の重要ポイント(施工前に必ずお読みください)

①**支柱の垂直**の確保、3本以上支柱が連続する場合は**支柱位置の直線度**を出す。

②支柱ピッチに合った板長さにカットし、**連結部は支柱の中心**に来るようにする。

③連結部は**施工時期ごとの隙間量**の確保。

④板はずれ防止のため**板1枚につき1本板留め**ビスか、もしくは接合部を接着剤で固定。

※ルーバー金具は板留めビス用の穴がありませんので注意してください。

# WOODY R・P 取扱説明書 横ルーバータイプ

WoodyRP材の取扱に際し正しく安全に施工して頂く為、注意マークを設定しました。



特に注意すべき内容



禁止してはいけないこと



アドバイス

## ●施工前の準備と確認

※WoodyRPフェンス材は外気の温度変化により伸縮する素材です。

### ①色相について

WoodyRPフェンス材は、再生原料を使用しています。そのために、板本体は天然木と同様に色相の濃淡があります。施工時には、板の配色バランスを見ながらの配置・設置をお願いします。

### ②養生について

施工時に、フェンス材を日なたに放置しておきますと反りの原因になります。必ず日陰での保管と共に養生しながらの施工をお願いします。特に夏期施工時における施工中の板の保管にはご注意ください。またフェンス材は高熱と溶剤に耐性がありません。高温を発生させるものや溶剤(強酸・強アルカリ薬品類等)には不用意に接触させないでください。



### ③梱包開封について

フェンス材を梱包から取り出す時の横からの引き抜きは厳禁です。横からの引き抜きは板表面にキズを付けます。必ず全開封取出しを実行してください。

### ④製品特性について

WoodyRPは再生原料を使用した発泡ポリスチレン樹脂製品です。アルミやその他の金属とは異なりプラスチック素材の為に硬さは柔らかい分類に属します。配送や材料移動、切断加工、ビス打ち、施工の前後等、特に細心の注意を払い作業をお願いします。

### ⑤フェンス板とパッチン金具のはめ合いについて

WoodyR・P本体板は太陽光のあたる面側に熱膨張が発生し伸びる性質があります。外気温の変化によって側面から見ると板が反った状態が発生致しますが、外気温が下がると元に戻ります。パッチン金具とフェンス板の平行度が欠けるとはめ合いがキツくなり、放置すると板の反りや変形の原因になります。施工時に必ず金具溝とフェンス板のはめ合いを調整してビス留め箇所以外の金具の溝と本体はスライド可能な状態をつくるようにして下さい。

### ⑥支柱ピッチについて

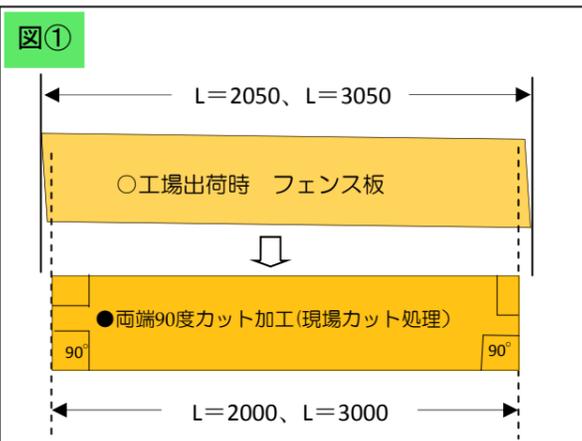
フェンスの支柱間の間隔(ピッチ)は、芯々で1000mm以内にて配置してください。フェンス板はプラスチック樹脂製ですので、柔らかく1000mmを超える支柱ピッチでの設計施工には適しません。反り・変形の原因になります。フェンス板は支柱ピッチに合わせてサイズを決めカットしてください。

### ⑦フェンス板のカットとカラー支柱のカットについて

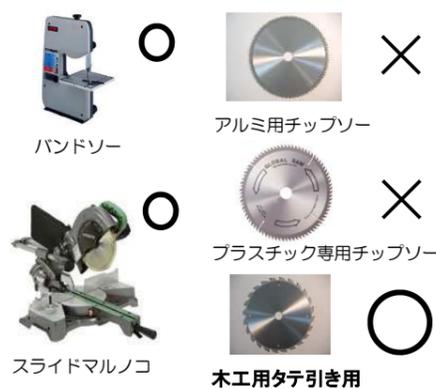
フェンス板の工場出荷時は下記図①のようにL=2000の場合2050mm、L=3000の場合3050mmの切りしろを付けた状態になっており、切断面の直角は出しておりません。施工時に90度にカットしてご使用ください。

切断にはスライド丸のこかバンドソー(帯ノコ)が適しています。丸刃は木工用の縦引きタイプの刃で綺麗に切れます。フェンス板の小口処理は、溶剤系(シンナー)を塗布するか、水性スプレーペイントの類似色にて塗布しますと皮膜ができ表層色に近くなり綺麗な仕上がりになります。

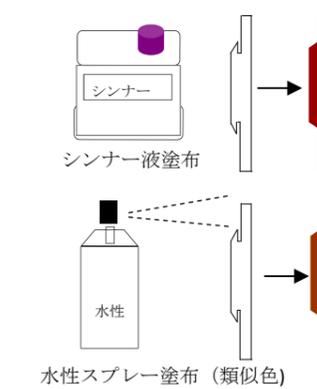
カラー支柱の切断は鉄用チップソーが適しています。ダイヤモンドカッター、切断砥石は適しません。



#### ●切断道具・刃の選択



#### ●フェンス板 小口処理



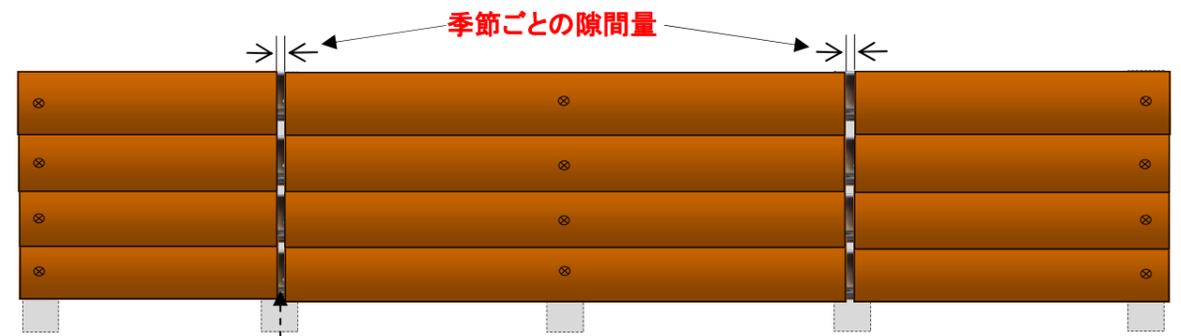
## ⑧連結部の隙間目地の必要性と施工上の基準値



WoodyRPフェンスは、夏場の高温時には熱膨張により反りが発生することがありますが製品に異常はありません。長手方向は、夏季の高温と冬季の低温により線膨張(熱膨張と伸縮)が起こります。フェンス板を長手方向に連結する場合、必ず隙間目地として季節ごとの隙間量をとって施工してください。

### 図② 季節ごとの隙間量: 春秋期4~5mm、夏期2~3mm、冬期6~7mm ※1℃当り伸縮率 0.0757mm/m

※寒暖の差の激しい地域では隙間間隔が参考値以上に必要になる場合があります。その場合はご相談ください。



●連結部は柱の中心に来るようにしてください。

●板ハズレ防止のため板一枚につき一箇所連結部を除く支柱箇所にはビス留めする。  
※フェンス板裏面の溝と金具を接着剤で固定する方法もあります。

#### ●支柱サイズの基準

高さ1800以下: アルミ支柱40角、カラー支柱40角  
高さ1800超: アルミ支柱70角、カラー支柱50角  
※高さ1500以上は天端部補強と中間胴縁補強を入れてください。

#### ●GLから板までの空きは50mm以上

フェンス板の反りや変形の原因となるため50mm以上空けて施工してください。

#### ●フェンスの高さと支柱・埋設の基準

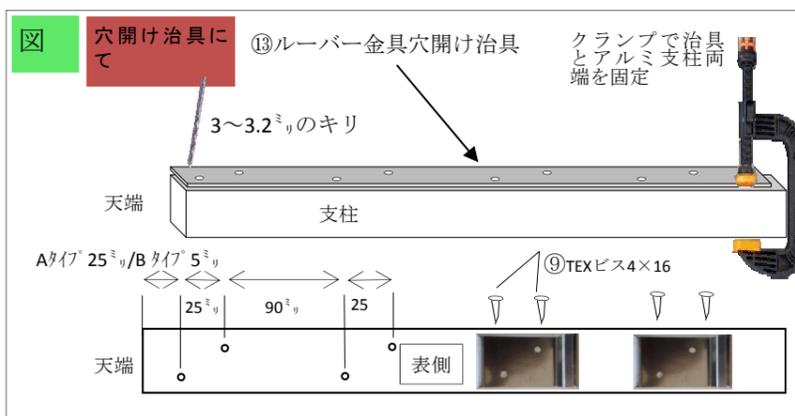
フェンス高さ(GLから)	埋設深さ
H1200以下	200~300mm
H1200~H2000	300~500mm
H2000~H2500	500~600mm

●フェンス板の跳ね出し 反り・変形の原因となりますので両端の支柱からの板の跳ね出しは100mm以内としてください。

## ⑨ルーバー金具穴あけ治具について

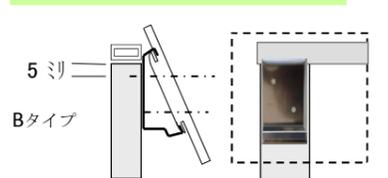
WoodyR・P専用の穴開け治具(オプション)を使用する際は、下図③のようにアルミ支柱天端部と穴開け治具の天端を正確に合わせクランプで穴開け治具と支柱を固定します。その後3~3.2mmのキリを用いて穴位置に下穴を開けます。金具取付は支柱のモルタル根巻き施工前の取付を推奨します。

ルーバー専用治具はフェンス板が115mmのピッチ(⑧フェンス板幅は125mm)となるように設定してあります。

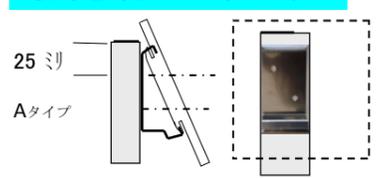


#### ※ルーバー金具留め穴位置

●胴縁20x40を天端に通す場合の位置



●横胴縁を支柱間に入れる場合の位置

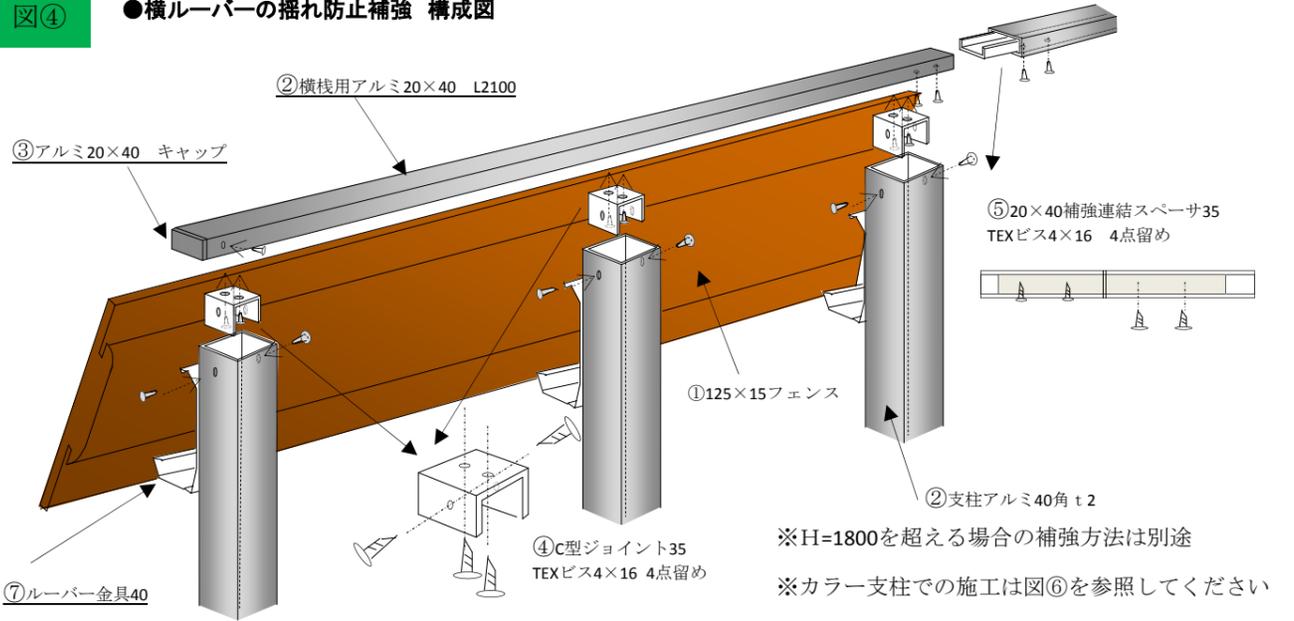


## ⑩その他

弊社では日々製品品質の向上には努力しておりますが、製品受領時(数量確認)と施工前の梱包開封時に必ず品質確認を実施してください。不具合を黙認しての施工終了後の保証はできません。ご注意ください。製品改善の為、予告なしに仕様変更することがあります。ご了承ください。

# WOODY R・P 取扱説明書 横ルーバータイプ

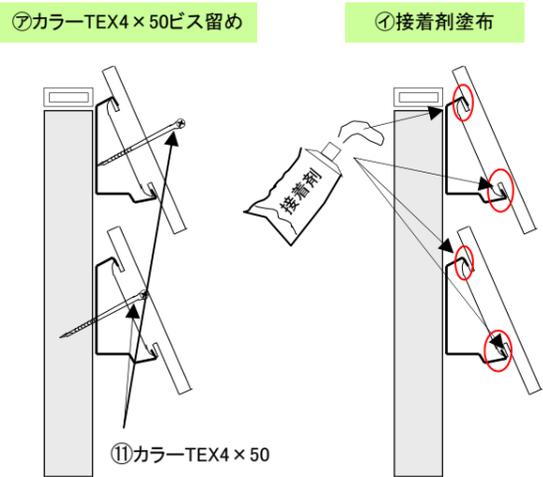
## 図④ ●横ルーバーの揺れ防止補強 構成図



### ⑪強風場所の揺れ止め補強

強風の吹く場所への設置は、本体の揺れ止め対策としてフェンス天端部に上図④のような揺れ防止補強材を必ず使用し補強を施してください。※H1500以上の横フェンスの場合には、揺れ止め補強は必須です。高さH1800を超える横フェンスを強風の吹く場所や冬季積雪がある場所へ施工する場合には、アルミの70角支柱（カラー支柱50角）にて施工してください。フェンス板ハズレ防止対策としてフェンス板1枚につきカラーTEX4×40を1本連結部以外の支柱に打ってください。

## 図⑤ ●ルーバー板留め事例図(概略)

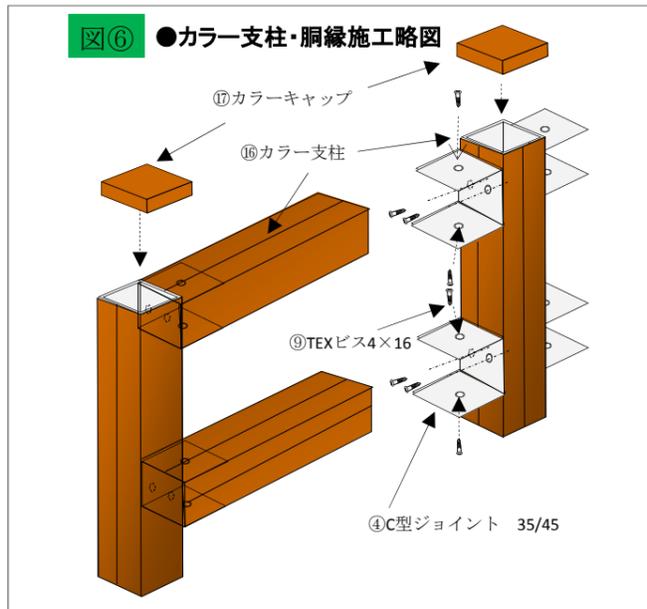


### ⑫板ハズレ防止対策

強風によるルーバー板ハズレ防止対策として、上図⑤のように⑦フェンス板1枚につき連結部以外の支柱にカラーTEX4×50を1本留めるか、⑧裏の金具溝と板溝に、金属+プラスチック用の接着材を付けて固定するか選択してください。

※ルーバー金具は支柱への取付用のビス穴はありますが、板留めのビス穴はありません。ビス留めをする金具は下穴ををけることをお薦めします。

## 図⑥ ●カラー支柱・胴縁施工略図



### ⑬カラー支柱の胴縁の固定

カラー支柱用の胴縁はカラー支柱と同じ材を使用します。図⑥のように支柱側に取り付けたC型ジョイントに胴縁用カラー支柱を差し込んだのち、上下方向から一カ所ずつTEXビス4×16で固定します。

※キャップのかぶりを考慮して胴縁位置を決めてください。  
※カラー支柱の切断後は必ずバリ取りを行ってください。  
※ビス留めの際の切粉が錆びる場合があります。切粉はきれいに除去してください。

### ⑫強風の吹く設置場所・積雪の多い設置場所での追加補強について

強風の設置場所・積雪の多い設置場所の追加補強については、以下の対策を施してください。①支柱ピッチを基準値（1,000mm以内）より短くする（例；500～800mm）。②胴縁を入れるもしくは増やす（H1500未満でも胴縁を入れたり、H1500以上でも3～4段入れる）。③支柱サイズを太くする（H1800以下は通常40角ですが、50～70角とする）。④支柱の埋設を基準値以上にする（寒冷地の場合は凍結深度を考慮する）。⑤控柱を設置する。⑥独立基礎を避ける。以上複数の項目を検討し施工してください。

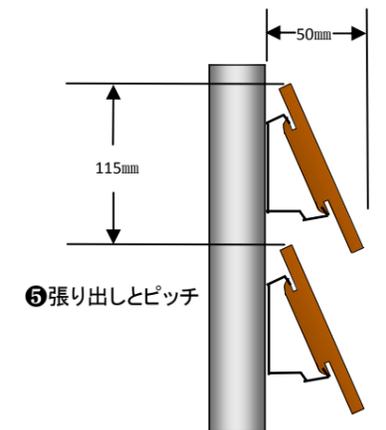
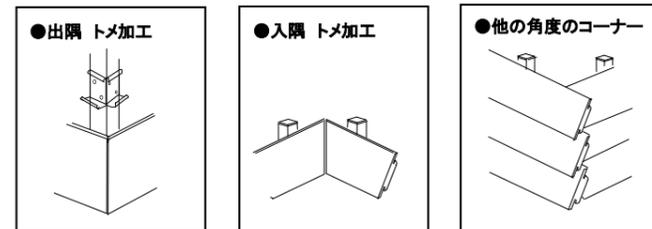
### ⑬板の反り・変形、金具からの板はずれ、その他施工不具合を防ぐためのポイント

- ①支柱の垂直を確保する、支柱が3本以上となる場合は支柱位置の直線度を出す。
- ②施工時期ごとの隙間を空ける（春秋4～5mm、夏期2～3mm、冬期6～7mm）。
- ③板1枚につき1本板留めビスで留めるか、金具と板の接合部に接着剤で固定する。
- ④支柱ピッチに適した板長さにカットし連結部は支柱の中心にくるようにする。
- ⑤カラー支柱の芯材は溶融亜鉛メッキ鋼管で防錆処理してありますが、ビス留めの際にでる切粉が錆びる場合があります。ビス留め時に切粉はきれいに除去してください。
- ⑥ルーバーの場合、支柱前面からの張り出しは50mmとなります。また板と板のピッチは115mmとなります（板幅125mm）。

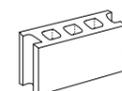


### ●コーナ処理について

○コーナ箇所90度の場合は、下図のようにできますが、切断の技術が必要になります。現場合わせを推奨します。他の角度の場合付け合わせとなります。（出隅）



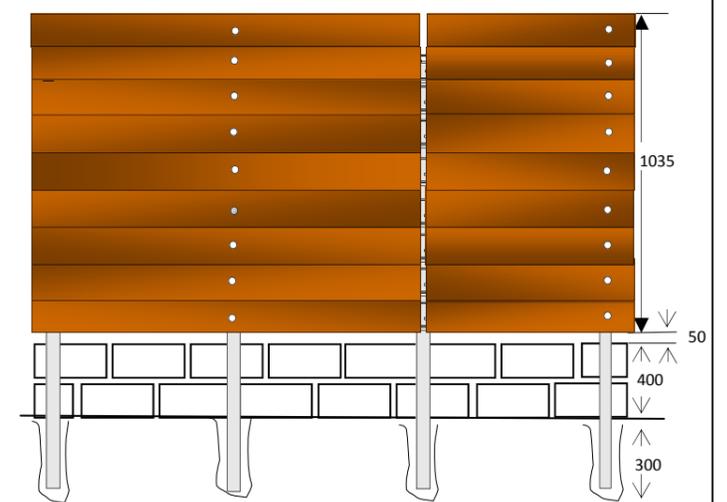
### ●ブロック上への施工の場合



※スタンダードタイプの空洞ブロック穴に埋め込み、フェンスを施工する場合、ブロック高さを含め、高さでH1500以内の施工が基準

※下記、図のようにアルミ支柱40角が使用できますが、柱ピッチが1m以内の間隔の為に、途中コア抜き作業が発生します。ブロック穴を利用した施工は、高さにより布基礎に根入れを施す必要が出てきます。ご注意ください。

※ブロックに縦横と鉄筋が入り強度が保てる場合は、推奨埋設の深さとなります。



# WOODY R・P 施工手順 横ルーバー(カラー支柱)

## ●WoodyR・P部品表 (塗りつぶしは使用しない部材)

番	部材形状	部材名称	サイズ・材質・用途	番	部材形状	部材名称	サイズ・材質・用途
①		Woody R・P フェンス板	125×15 L=2000 (2050) 125×15 L=3000 (3050)	⑩		カラー TEX 4×40	4×40 (SUS) サイドバー・横フェンス・縦フェンス用
②		支柱アルミ角材各種	アルミ角40×40t2支柱用 アルミ角70×70t2支柱用 アルミ角30×70t2胴縁用 アルミ角20×40t2胴縁用	⑪		カラー TEX 4×50	4×50 (SUS) 連結バー・ルーバー用
③		アルミ支柱用キャップ各種	支柱40角用・70角用 胴縁アルミ20×40用	⑫		横棧用連結バー 10×40	10×40 L=2000
④		C型ジョイント	35×35×30 t2 45×45×40 t2	⑬		パッチン金具 穴開け治具1500	40×1500× t2
⑤		横棧補強アルミ連結スペーサー	35×13× L=200	⑭		ルーバー金具 穴開け治具1500	40×1500× t2
⑥		パッチン留め金具40標準	75×40× t0.5	⑮		サイドバー 30×40	30×40 L=2000
⑦		ルーバー留め金具40	70×40× t0.5	⑯		カラー支柱 角40×40 t1.2支柱 角50×50 t1.6支柱	
⑧		胴縁用接続Lアングル	40×40× t2 40×70× t2	⑰		カラーキャップ カラー支柱用 40角・50角	
⑨		TEXビス4×16	4×16 (SUS)	-	-	-	-

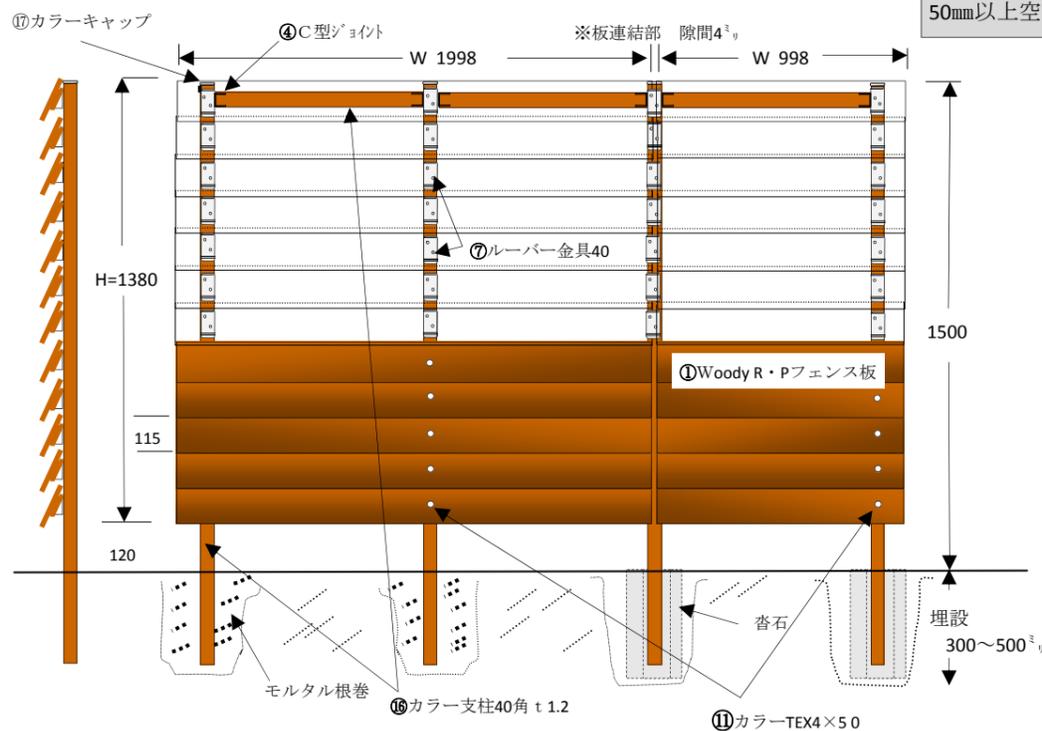
●施工前に必ず施工場所の土質と環境条件(強風の吹く場所・積雪等のある場所)等をご確認ください。

### 基本図面 春・秋期施工 H1500×W=3000(アルミ支柱標準仕様)

※施工時期により板隙間が異なります。取扱説明書図②参照ください。

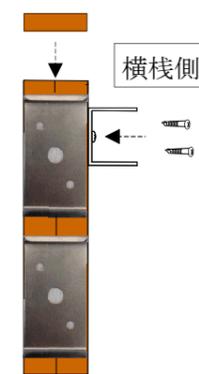
●GLから板までの空きは50mm以上

フェンス板の反りや変形の原因となるため50mm以上空けて施工してください。



### ●施工手順① C型ジョイント取付方法

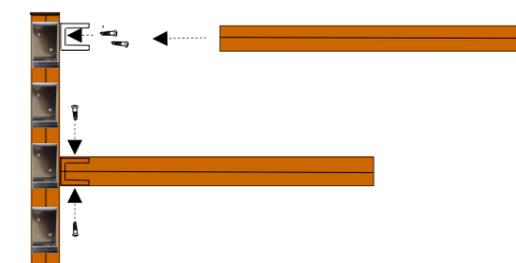
- ポイント**
- ①上段の胴縁や最上段の金具はカラーキャップのかぶりを考慮して位置決めしてください。
  - ②ビス留めの際に出る切粉が錆びる場合があります。切粉はきれいに取り除いてください。
  - ③カラーキャップは市販の接着剤で固定してください。
- ※H1500未満は胴縁を設置しません。



カラー支柱3面にラインが入っています。図の様にキャップを挿入後ライン面へパッチン金具、C型ジョイントをTEXビス4×16にて固定ください。

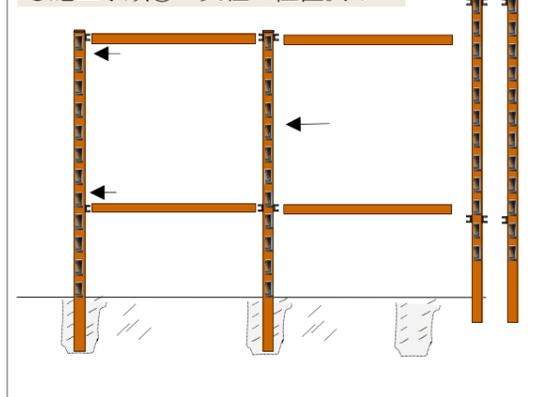
※支柱4面にビスを使用する場合、支柱センターを避けビス留め施工してください。

### ●施工手順② 横胴縁の固定方法

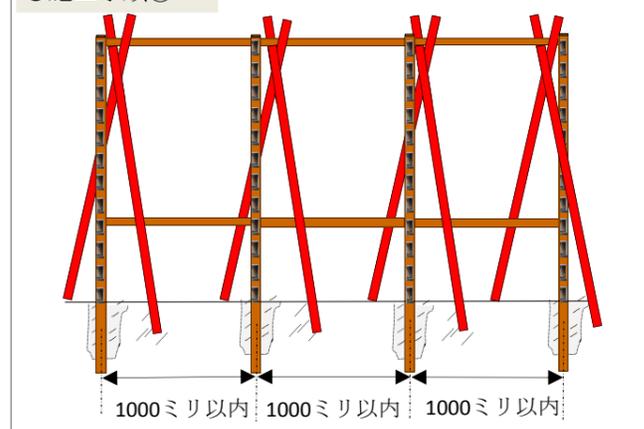


カラー支柱は胴縁固定はC型ジョイントで施工ください、支柱側へTEXビス4×16を2本でC型ジョイントを固定、次に胴縁用カラー支柱を差し込みTEXビス4×16を上下2カ所へ1本ずつ打ち固定ください。

### ●施工手順③ 支柱の位置決め

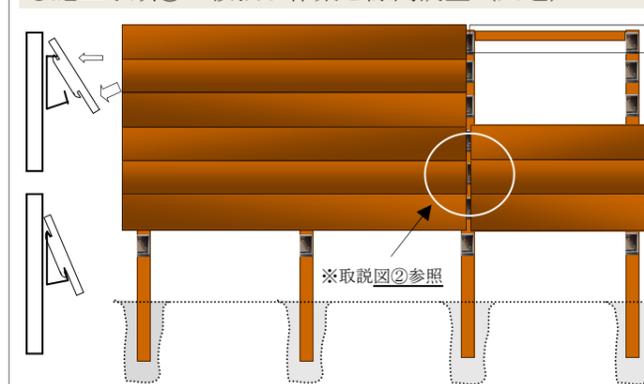


### ●施工手順④



カラー支柱の設置間隔(スパン)は芯々で1m以内に収まるように支柱の埋設位置を決定します。次に水平器にて支柱の垂直、水平を出した後に支柱と胴縁を接続しモルタル寝巻きにて支柱を固定します。ポイント:①支柱ピッチ1m以内、②支柱の垂直を確保③3本以上の支柱は直線度を出す。

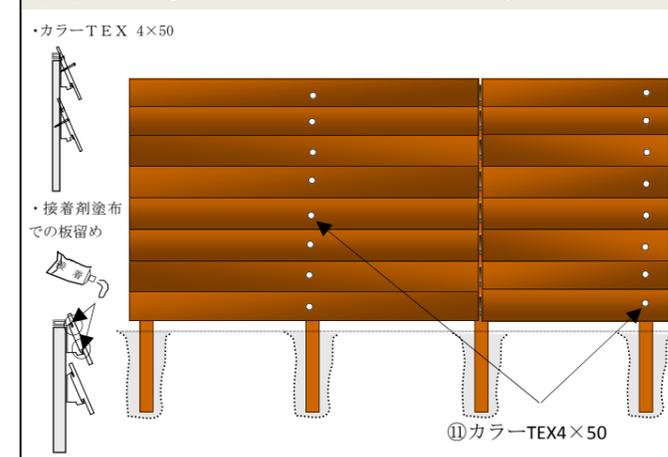
### ●施工手順⑤ 板張り作業と隙間調整 (共通)



フェンス板を任意の寸法に切断し、ルーバー金具上溝に合わせ板を上方に押し込むように“パチン”とはめ込みます。連結部分は取扱説明書図②を参照して隙間調整を行います。

ポイント:①板と板の連結部は支柱の中心に来るように位置決め、②施工時期ごとの隙間量の調整、③フェンス板は下段から上へ順番に取付。

### ●施工手順⑥ 板ハズレ防止用TEXビスと接着材固定



板ハズレ留め用のカラーTEXビス4×50を板1枚に1本連結部以外の支柱箇所にも留めるか、または、ルーバー金具の裏溝に(金属+プラスチック用)接着剤を付け固定します。

# WOODY R・P フェンスの施工基準について

※取扱説明書は横ルーバーアルミ支柱用の3/4と4/4を参照してください。

●参考例：W5000直線（L2000板×1列＋L3000板×1列、支柱6本）

●季節ごとの隙間量：春秋期4～5mm、夏期2～3mm、冬期6～7mm

※1℃当り伸縮率 0.0757mm/m

●板留めビスは**板1枚につき1本**、連結部を除く支柱箇所ビス留めしてください。  
※L3000板を使用する場合は中央部の支柱箇所のうちどちらかにビス留めします。  
(カラーTEX4×40)

※金具の裏溝と板の接合部に接着剤で固定する方法もあります。

●サイドバーは上段から1段おきにビス留めする。(カラーTEXビス4×40)

●反り・変形の原因となりますので両端の支柱側面からの板の跳ね出しは**100mm以内**としてください。

●H1500以上は揺れ止め補強として、天端と中間に胴縁をいれてください。

●板と板の連結部は**支柱の中心**にくるように配置してください。

●GLから再下段の板までの空きは、フェンス板の反りや変形の原因となるため**50mm以上**空けて施工してください。

## ●支柱サイズの基準

高さ1800以下：アルミ支柱40角、カラー支柱40角  
高さ1800超：アルミ支柱70角、カラー支柱50角

## ●施工上のアドバイス

- ①金具取付は支柱埋設前が効率的。
- ②板の取付は下段から上段にとりつける。
- ③板の取付は金具に下溝を入れ押し下げようにして上溝に入れる。

## ●フェンスの高さと支柱・埋設の基準

フェンス高さ(GLから)	埋設深さ
H1200以下	200～300 <sup>mm</sup>
H1200超～H2000以下	300～500 <sup>mm</sup>
H2000超～H2500以下	500～600 <sup>mm</sup>

●支柱ピッチは芯々で**1,000mm以内**としてください。

## ◎施工上の重要ポイント(施工前に必ずお読みください)

- ①**支柱の垂直**の確保、3本以上支柱が連続する場合は**支柱位置の直線度**を出す。
- ②支柱ピッチに合った板長さにカットし、**連結部は支柱の中心**に来るようにする。
- ③連結部は**施工時期ごとの隙間量**の確保。
- ④板はずれ防止のため**板1枚につき1本板留め**ビスか、もしくは接合部を接着剤で固定。
- ⑤ビス留めの際に出る**切粉が錆びる**場合があります。きれいに取り除いてください。

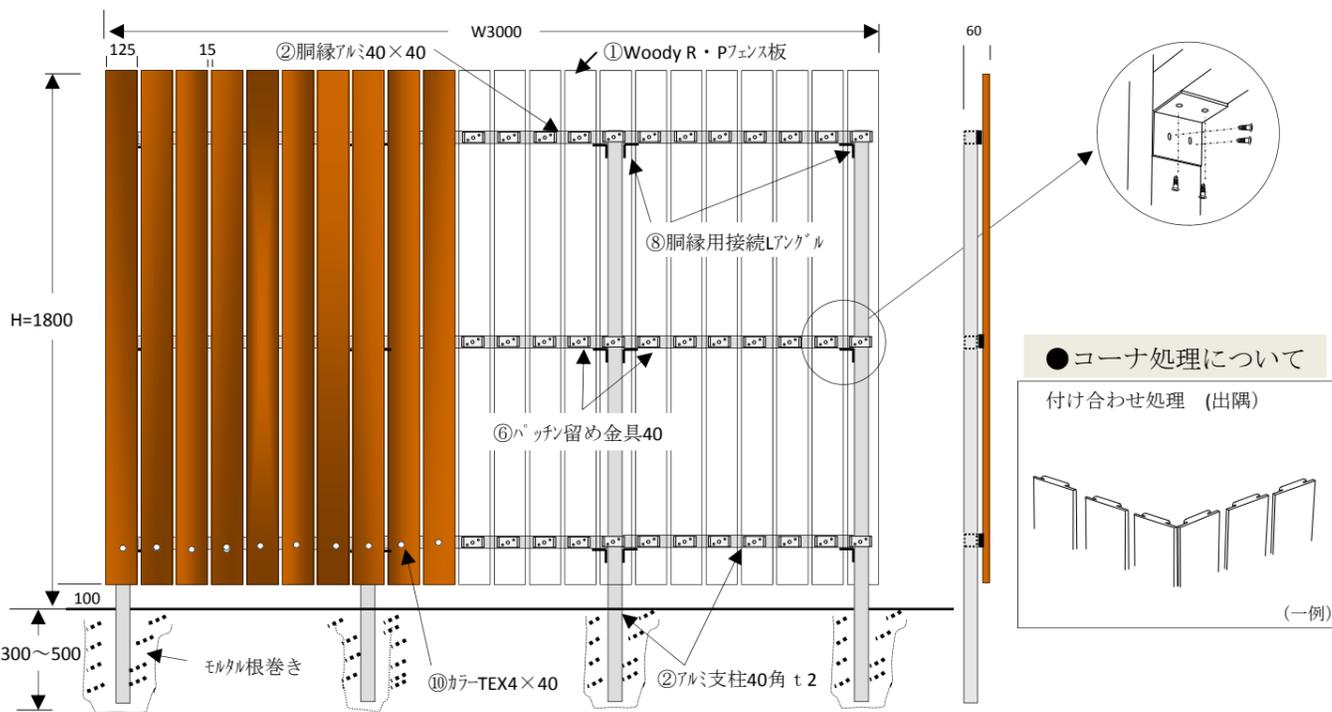
# WOODY R・P 施工手順 縦フェンスタイプ(アルミ支柱)

●WoodyR・P部品表 (塗りつぶしは使用しない部材)

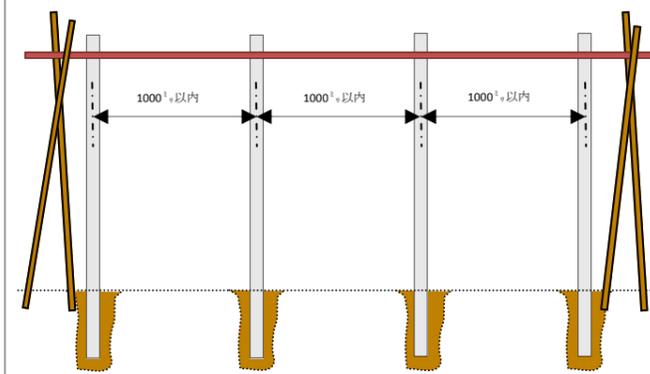
番	部材形状	部材名称	サイズ・材質・用途	番	部材形状	部材名称	サイズ・材質・用途
①		Woody R・P フェンス板	125×15 L=2000 (2050) 125×15 L=3000 (3050)	⑩		カラー TEX 4×40	4×40 (SUS) 横フェンス・縦フェンス用
②		支柱アルミ 角材各種	アルミ角40×40t2支柱用 アルミ角70×70t2支柱用 アルミ角30×70t2胴縁用 アルミ角20×40t2胴縁用	⑪		カラー TEX 4×50	4×50 (SUS) 連結バー・ルーバー用
③		支柱用キャップ 各種	支柱40角用・70角用 胴縁アルミ20×40用	⑫		横棧用連結バー 10×40	10×40 L=2000
④		C型ジョイント	35×35×30 t 2 45×45×40 t 2	⑬		パッチン金具穴 開け治具1500	40×1500×t 2
⑤		横棧補強アルミ 連結バー	35×13×L=200	⑭		ルーバー金具穴 開け治具1500	40×1500×t 2
⑥		パッチン留め	75×40×t 0.5	⑮		サイドバー	30×40 L=2000
⑦		ルーバー留め 金具40	70×40×t 0.5	⑯		カラー支柱	角40×40 t 1.2支柱 角50×50 t 1.6支柱
⑧		胴縁用接続 Lアングル	40×40×t 2 40×70×t 2	⑰		カラーキャップ	カラー支柱用 40角・50角
⑨		TEXビス4×16	4×16 (SUS)	-	-	-	-

●施工前に必ず施工場所の土質と環境条件(強風の吹く場所・積雪等のある場所)等をご確認ください。

基本図面 H1800×W=3000(アルミ支柱標準仕様)

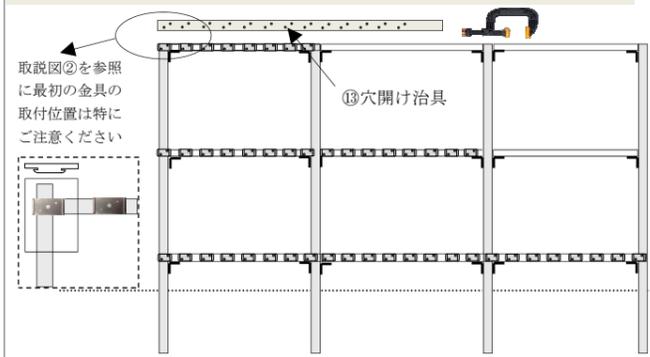


●施工手順① 支柱の位置決め (共通仕様)



アルミ支柱の設置間隔(スパン)が**芯々で1m以内**に収まるように支柱の埋設位置を決定します。次に水平器にて支柱の垂直・水平を出した後にモルタル根巻きにて支柱を固定します。その際、支柱の天端部分を通す治具で支柱の直線出しを行うと作業効率が上がります。

●施工手順③ パッチン金具取付工程 (標準仕様)



穴開け治具を胴縁アルミに合わせ、最初の金具の取り付け位置を確認した後、クランプで仮固定し留め金具の下穴を開けます。次にTEXビス4×16で留め金具を取付します。前工程で胴縁アルミに留め金具を付けておいてから、Lアングル40で固定する方法でも取付は可能です。※支柱にかかる箇所は胴縁設置後に取り付けしてください。



●支柱サイズの基準

H2000以下：アルミ支柱40角、カラー支柱40角  
H2000超：アルミ支柱70角、カラー支柱50角

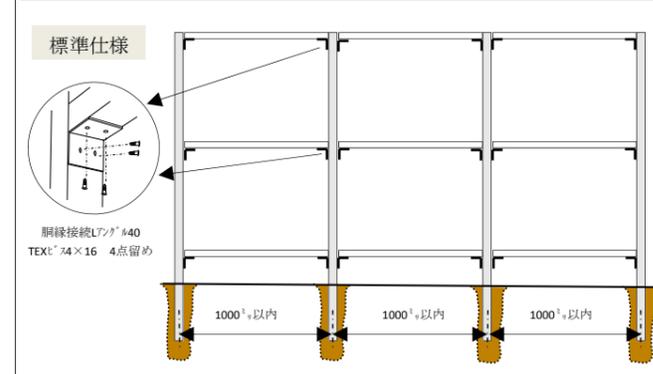
●胴縁の段数

H1400以下：2段(天端部・下段部)  
H1400超～H2000：3段(天端部・中間部・下段部)  
H2000超：4段(※フェンス板長さがL2000以下の場合は3段)

●フェンス板の跳ね出しについて

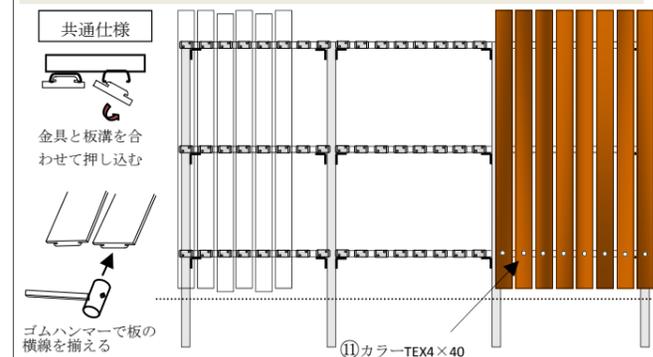
フェンス板の反りや変形の原因となるため、上部と下部の板の跳ね出しは胴縁から200mm以内で施工してください。

●施工手順② 横胴縁アルミを取付 (天端・中間・下段)



胴縁アルミ40×40を支柱間の長さでカットします。次に、支柱天端部にLアングル40を用いて左右の胴縁下に、TEXビス4×16で4箇所留めします。同様に、中間部、下段部と横胴縁を固定していきます。

●施工手順④ フェンス板張りりと板ハズレ防止工程



フェンス板張り作業は、金具の片方の溝に板の裏溝を合わせ、その合わせた方の外側に押すようにしながらもう片方の溝に“パッチン”と押し込みます。次にゴムハンマーで、全ての板の高さが直線になるように板の端部を軽く叩いて調整します。最後に板ハズレ止め用のカラーTEX4×40を板1枚に1本、最下段の胴縁箇所板正面から下穴加工をして留めます。

※フェンス板裏面の金具取付部は板の中心からずれています。金具取付前にどちらに向けるか決めて、揃えて張るようにしてください。

●フェンスの高さと支柱・埋設の基準

フェンス高さ(GLから)	埋設深さ
H1200以下	200～300 <sup>mm</sup>
H1200～H2000	300～500 <sup>mm</sup>
H2000～H2500	500～600 <sup>mm</sup>

●GLから板までの空きは50mm以上

フェンス板の反りや変形の原因となるため50mm以上空けて施工してください。

# WOODY R・P 取扱説明書 縦フェンスタイプ

WoodyRP材の取扱に際し正しく安全に施工して頂く為、  
注意マークを設定しました。



特に注意すべき内容



禁止してはいけないこと



アドバイス

## ●施工前の準備と確認

※WoodyRPフェンス材は外気の温度変化により伸縮する素材です。

### ①色相について

WoodyRPフェンス材は、再生原料を使用しています。そのため、板本体は天然木と同様に色相の濃淡があります。施工時には、板の配色バランスを見ながらの配置・設置をお願いします。

### ②養生について

施工時に、フェンス材を日なたに放置しておきますと反りの原因になります。必ず日陰での保管と共に養生しながらの施工をお願いします。特に夏期施工時における施工中の板の保管にはご注意ください。またフェンス材は高熱と溶剤に耐性がありません。**高温を発生させるものや溶剤(強酸・強アルカリ薬品類等)には不用意に接触させないでください。**

### ③梱包開封について

フェンス材を梱包から取り出す時の横からの引き抜きは厳禁です。横からの引き抜きは板表面にキズを付けます。必ず**全開封取出し**を実行してください。

### ④製品特性について

WoodyRPは再生原料を使用した発泡ポリスチレン樹脂製品です。アルミやその他の金属とは異なりプラスチック素材の為に硬さは柔らかい分類に属します。配送や材料移動、切断加工、ビス打ち、施工の前後等、特に細心の注意を払い作業をお願いします。

### ⑤フェンス板とパッチン金具のはめ合いについて

WoodyR・P本体板は太陽光のあたる面側に熱膨張が発生し伸びる性質があります。外気温の変化によって側面から見ると板が反った状態が発生致しますが、外気温が下がると元に戻ります。パッチン金具とフェンス板の平行度が欠けるとはめ合いがキツくなり、放置すると板の反りや変形の原因になります。施工時に必ず金具溝とフェンス板のはめ合いを調整してビス留め箇所以外の金具の溝と本体はスライド可能な状態をつくるようにして下さい。

### ⑥支柱ピッチについて

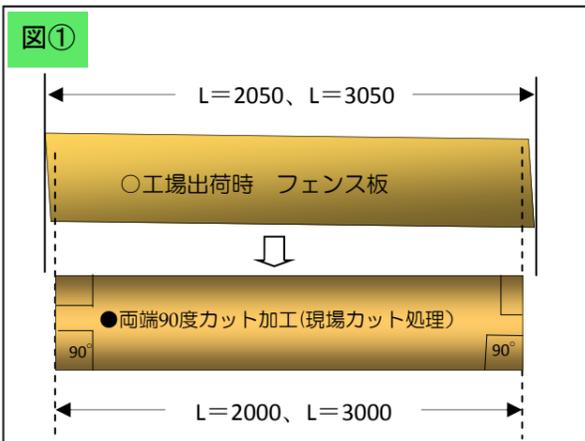
フェンスの支柱間の間隔(ピッチ)は、**芯々で1000mm以内にて配置してください。**フェンス板はプラスチック樹脂製ですので、**柔らかく1000mmを超える支柱ピッチでの設計施工には適しません。**反り・変形の原因になります。

### ⑦フェンス板のカットとカラー支柱のカットについて

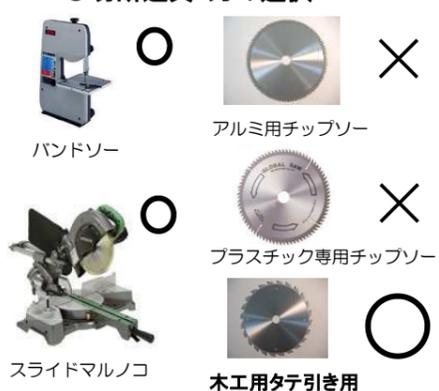
フェンス板の工場出荷時は下記図①のようにL=2000の場合2050mm、L=3000の場合3050mmの切りしろを付けた状態になっており、切断面の直角は出しておりません。**施工時に90度にカット**してご使用ください。

切断には**スライド丸のこ**かバンドソー(帯ノコ)が適しています。**丸刃は木工用の縦引きタイプの刃**で綺麗に切れます。フェンス板の小口処理は、溶剤系(シンナー)を塗布するか、水性スプレーペイントの類似色にて塗布しますと皮膜ができて表層色に近くなり綺麗な仕上がりになります。

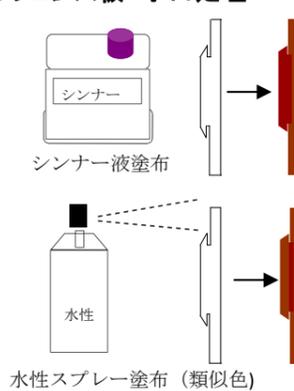
カラー支柱の切断は鉄用チップソーが適しています。ダイヤモンドカッター、切断砥石は適しません。



#### ●切断道具・刃の選択



#### ●フェンス板 小口処理



## ⑧各種施工基準について

### ●支柱サイズの基準

H2000以下：アルミ支柱40角、カラー支柱40角  
H2000超：アルミ支柱70角、カラー支柱50角

### ●胴縁の段数

H1400以下：2段(天端部・下段部)  
H1400超～H2000：3段(天端部・中間部・下段部)  
H2000超：4段(※フェンス板長さがL2000以下の場合は3段)

### ●フェンス板の跳ね出しについて

フェンス板の反りや変形の原因となるため、上部と下部の板の跳ね出しは胴縁から200mm以内で施工してください。

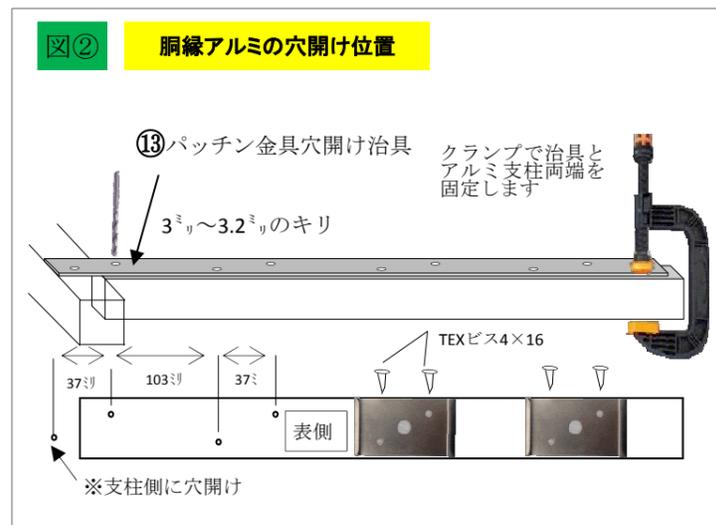


## ⑨パッチン金具穴開け治具について

WoodyR・P専用の穴開け治具(オプション)を使用する際は、下図②のように支柱用アルミの側面と穴開け治具の端部を正確に合わせクランプで穴開け治具と支柱を固定します。その後3～3.2mmのキリを用いて穴位置に下穴を開けます。

※金具取付の始まり位置は任意で決めることができますが、基本的にはアルミ支柱を含む厚みを考慮して決めてください。

※金具取付は支柱のモルタル根巻き施工前の取付が可能です。ただし支柱にかかる箇所は取付できませんのでご注意ください。



- フェンス板裏面の金具取付部は板の中心からずれています。金具取付前にどちらに向けるか決めて揃えて張るようにしてください。**右図**
- 最終で納まり寸法が明確でない場合は、現場にて隙間の微調整が必要になります。
- パッチン金具の取付位置の始まり部分と終わりの金具位置は施工の長さ寸法と隙間寸法、納まり寸法で変わりますので、現場寸法にて微調整

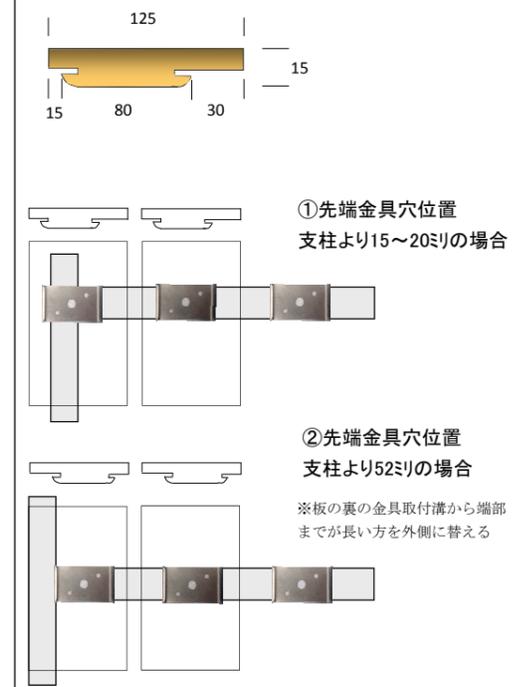
## ●フェンスの高さと支柱・埋設の基準

フェンス高さ(GLから)	埋設深さ
H1200以下	200～300mm
H1200～H2000	300～500mm
H2000～H2500	500～600mm

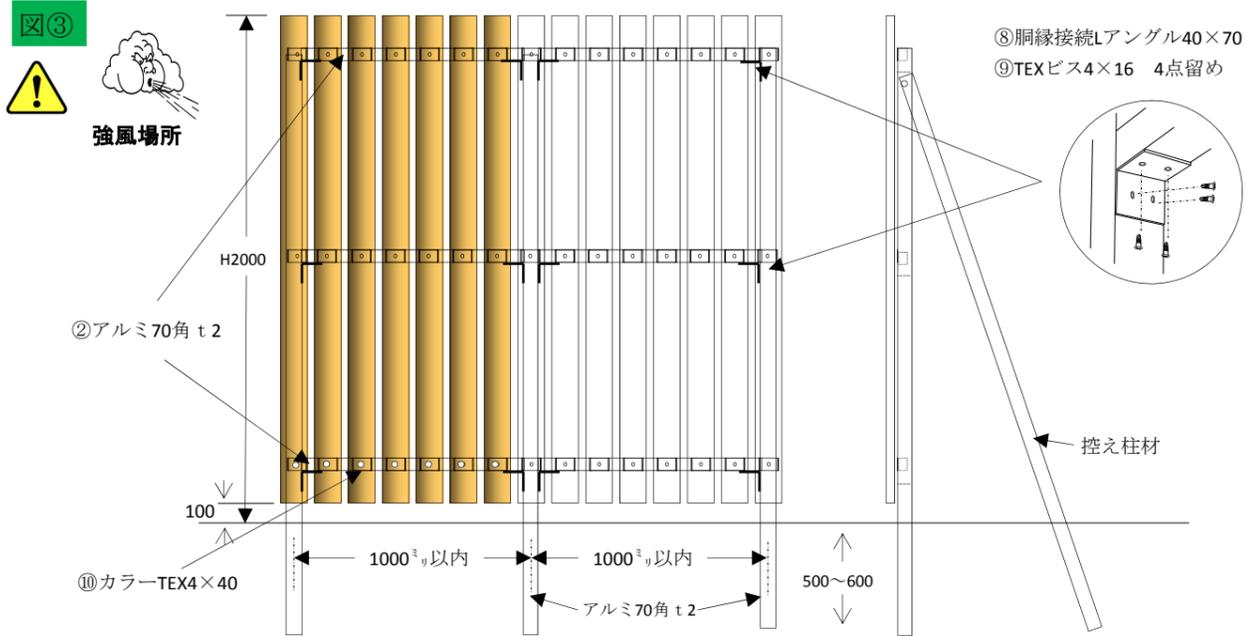
## ●GLから板までの空きは50mm以上

フェンス板の反りや変形の原因となるため50mm以上空けて施工してください。

## ●フェンス板断面形状



# WOODY R・P 取扱説明書 縦フェンスタイプ



## ⑪H2000を超えるフェンス施工について

高さH2000を超えるフェンスを設置する場合、アルミ支柱を70角にして設置してください。また、強風や積雪のある場所は図③のように、控え柱を添えての施工をお奨めします。H2000を超える場合は胴縁を4段としてください。ただしフェンス板長さがL2000以下の場合は3段となります。※図③はフェンス長さがL1900のため胴縁は3段となります。

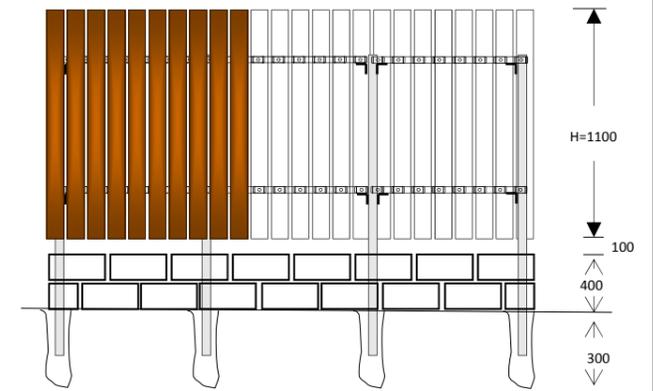
WoodyRPフェンスはH2500までの施工となります。H2500を超える場合は他社製品をご検討ください。

## ●ブロック上への施工の場合

※スタンダードタイプの空洞ブロック穴に埋め込み、フェンスを施工する場合、ブロック高さを含め、高さでH1600以内の施工が基準です。

※下記、図のようにアルミ支柱40角が使用できませんが、柱ピッチが1m以内の間隔の為に、途中コア抜き作業が発生します。ブロック穴を利用した施工は、高さにより布基礎に根入れを施す必要が出てきます。ご注意ください。

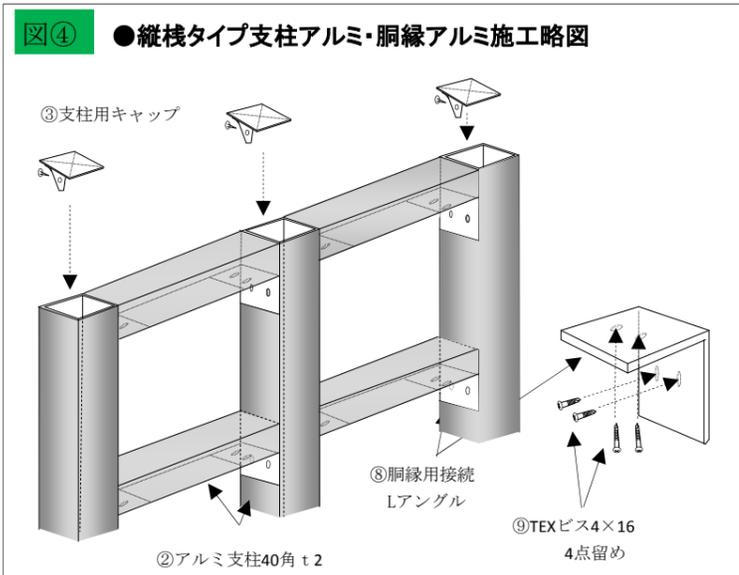
※ブロックに縦横と鉄筋が入り強度が保てる場合は、推奨埋設の深さとなります。



## ⑬強風による揺れ防止対策の補強について

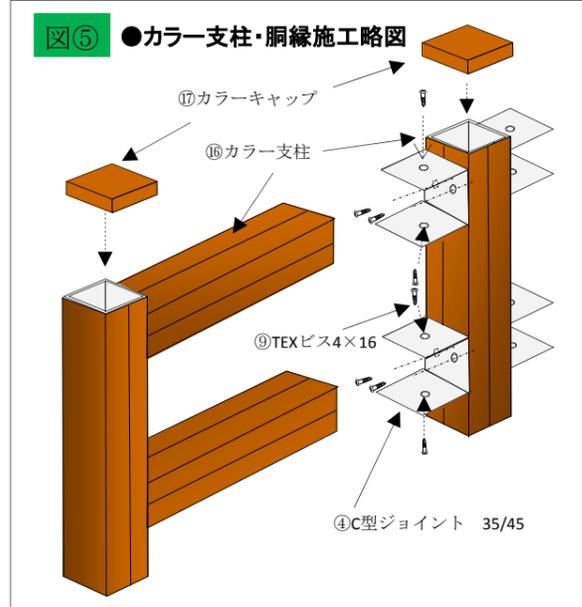
強風が常時吹く地域の設置場所の場合で高さH1800を超える場合はアルミ支柱70角、カラー支柱50角仕様に変更してください。

更に補強が必要な場合、①横胴縁を増やす、②控柱（図③参照）をする、③支柱ピッチを短くする、④支柱の埋設を基準以上にする、などの対策を施してください。※②以外は施工完成後はできませんので事前の準備が必要です。



## ⑫アルミ支柱の胴縁の固定

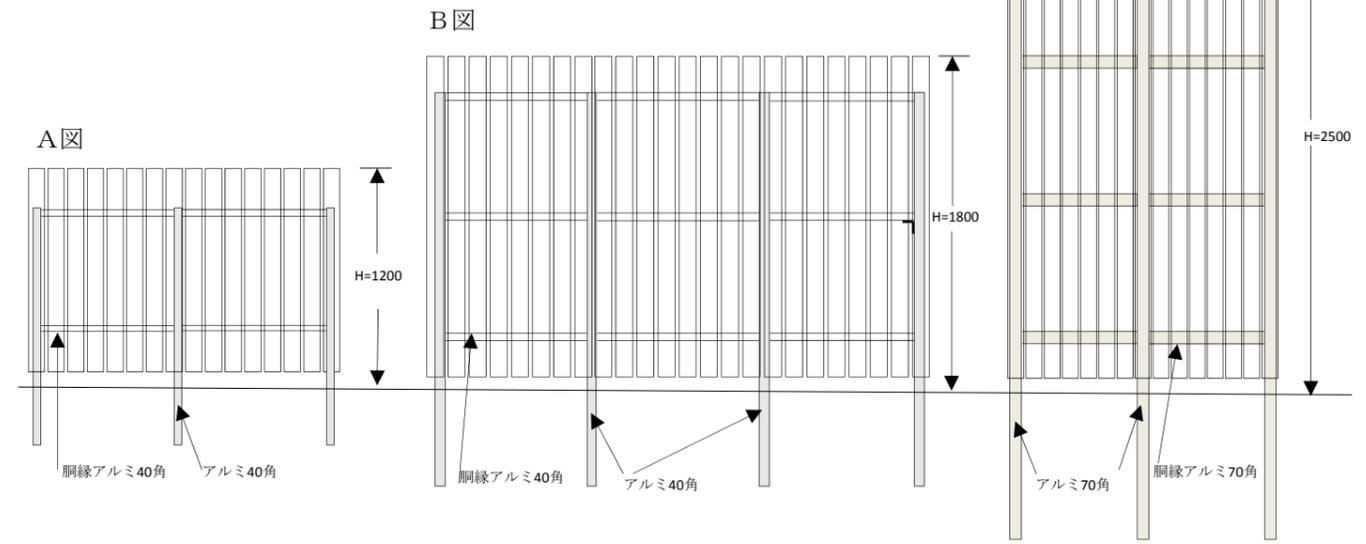
胴縁アルミ40・70角を支柱間の長さにカットし、胴縁用接続Lアングルを使い支柱側2点、胴縁側2点へTEXビス4×16で留めてください。



## ⑬カラー支柱の胴縁の固定

カラー支柱用の胴縁はカラー支柱と同じ材を使用します。図⑤のように支柱側に取り付けたC型ジョイントに胴縁用カラー支柱を差し込んだのち、上下方向から一カ所ずつTEXビス4×16で固定します。

- ※キャップのかぶりを考慮して胴縁位置を決めてください。
- ※カラー支柱の切断後は必ずバリ取りを行ってください。
- ※ビス留めの際の切粉が錆びる場合があります。切粉はきれいに取り除いてください。



※A図（H1200）、B図（H1800）、C図（H2500）はそれぞれの標準仕様（支柱サイズ・胴縁段数）です。施工するフェンスの高さの標準仕様を前提に上記①～④の補強を施してください。参考：⑧各種施工基準について

## ⑮その他

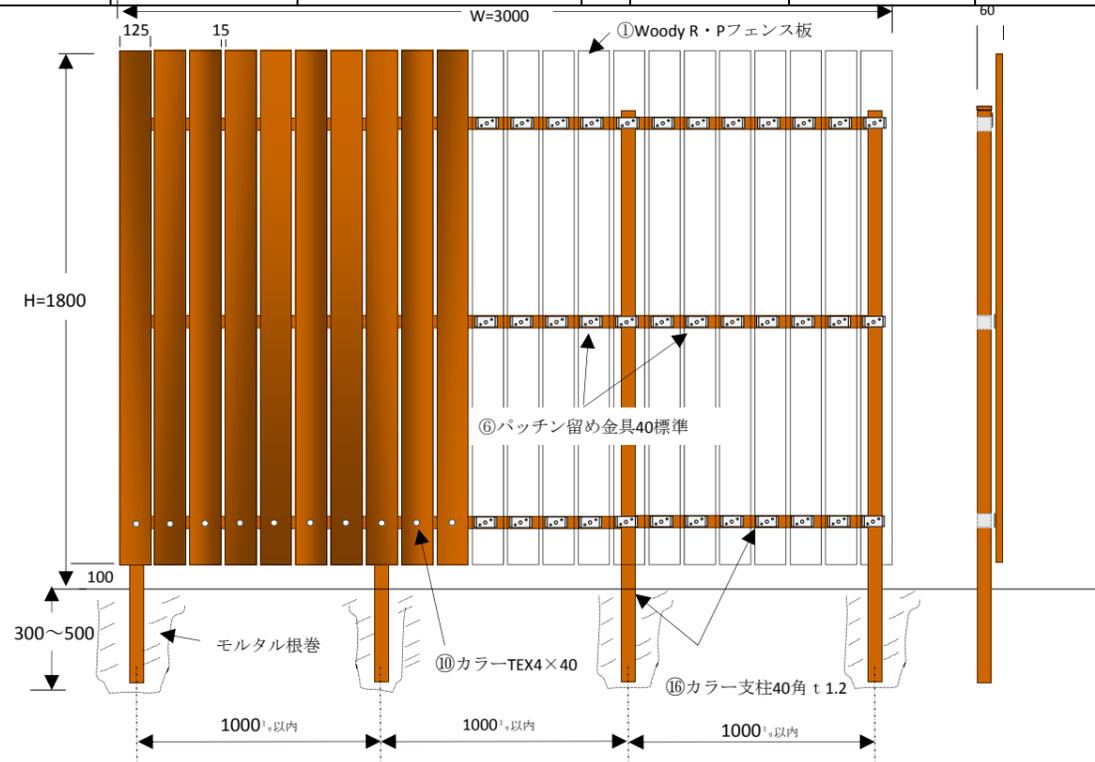
弊社では日々製品品質の向上には努力しておりますが、製品受領時（数量確認）と施工前の梱包開封時に必ず品質確認を実施してください。不具合を黙認しての施工終了後の保証はできかねます。ご注意ください。

製品改善の為、予告なしに仕様変更することがあります。ご了承ください。

# WOODY R・P 施工手順 縦フェンスタイプ (カラー支柱)

●WoodyR・P部品表部品表 (塗りつぶしは使用しない部材)

番	部材形状	部材名称	サイズ・材質・用途	番	部材形状	部材名称	サイズ・材質・用途
①		Woody R・P フェンス板	幅125×厚み15 <sup>3</sup> 、L=2000 幅125×厚み15 <sup>3</sup> 、L=3000	⑩		カラー TEX 4×40	4×40 (SUS) サイドバー・ 横フェンス・縦フェンス用
②		支柱アルミ 角材各種	アルミ角40×40t2支柱用 アルミ角70×70t2支柱用 アルミ角30×70t2胴縁用 アルミ角20×40t2胴縁用	⑪		カラー TEX 4×50	4×50 (SUS) 連結バー・ルーバー用
③		アルミ支柱用 キャップ各種	支柱40角用・70角用 胴縁アルミ20×40用	⑫		横棧用連結バー 10×40	10×40 L2000
④		C型ジョイント	35×35×30 t 2 45×45×40 t 2	⑬		パッチン金具 穴開け治具1500	40×1500× t 2
⑤		横棧補強アルミ 連結スペーサー	35×13× L 200	⑭		ルーバー金具 穴開け治具1500	40×1500× t 2
⑥		パッチン留め 金具40標準	75×40× t 0.5	⑮		サイドバー 30×40	30×40 L2000
⑦		ルーバー留め 金具40	70×40× t 0.5	⑯		カラー支柱 角40×40 t 2支柱・胴縁 角50×50 t 2支柱・胴縁	角40×40 t 2支柱・胴縁 角50×50 t 2支柱・胴縁
⑧		胴縁用接続	40×40× t 2	⑰		カラーキャップ カラー支柱用	カラー支柱用
●施工前に必ず施工場所の土質と環境条件(強風の吹く場所・積雪等のある場所)等をご確認ください。							
基本図面 H1800×W=3000(カラー支柱仕様)							

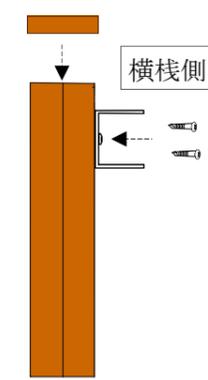


※取扱説明書は縦フェンスアルミ支柱用の2/3と3/3を参照してください。

## ●施工手順①

### ポイント

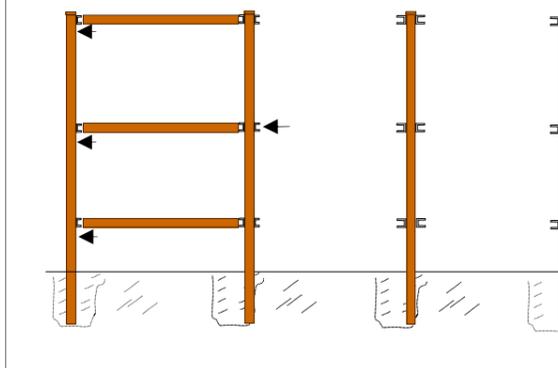
- ①上段の胴縁はカラーキャップのかぶりを考慮
- ②ビス留めの際に出る切粉が錆びる場合があります。切粉はきれいに取り除いてください。
- ③カラーキャップは市販の接着剤で固定してください。



カラー支柱3面にラインが入っています。図の様にキャップを接着剤で固定した後ライン面にC型ジョイントをTEXビス4×16にて固定してください。

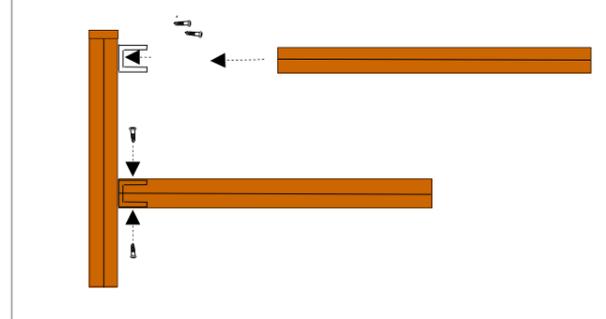
※支柱4面にビスを使用する場合、支柱センターを避けビス留め施工してください。

## ●施工手順③ 支柱の位置決め



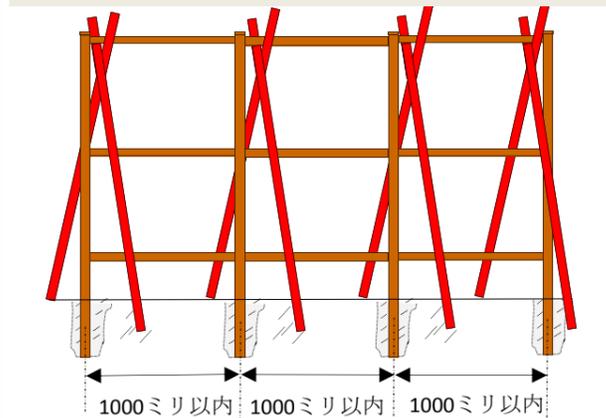
カラー支柱の設置間隔(スパン)は芯々1m以内に収まるように支柱の埋設位置を決定します。次に水平器にて支柱の垂直、水平を出した後に支柱と胴縁を接続し、モルタル寝巻きにて支柱を固定します。

## ●施工手順② 横胴縁の固定方法

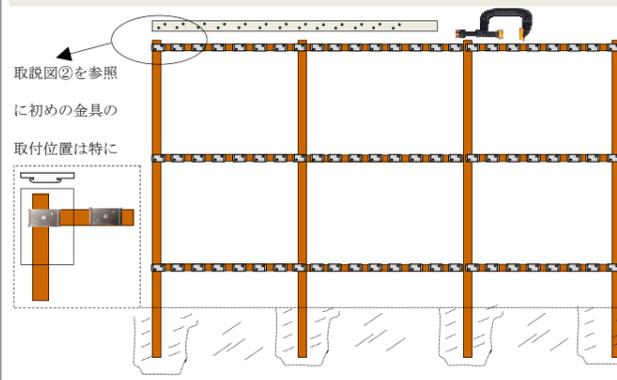


カラー支柱と胴縁固定はC型ジョイントで接続します。支柱側へTEXビス4×16を2本でC型ジョイントを固定、次に胴縁用カラー支柱を差し込みTEXビス4×16を上下2カ所へ1本ずつ打ち固定ください。

## ●施工手順④ 横胴縁を取付 (天端・中間・下段)



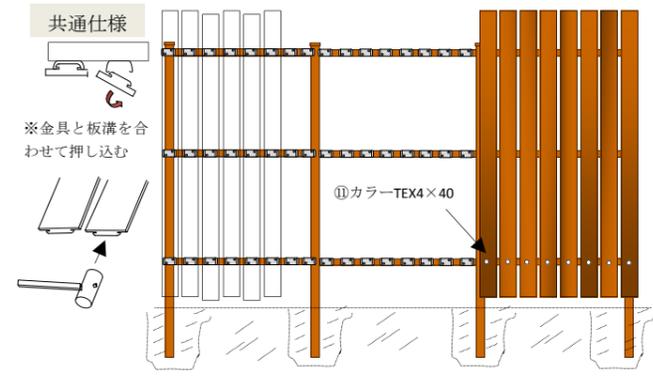
## ●施工手順⑤ パッチン金具取付工程



穴開け治具を胴縁に合わせ、加工始めの位置を確認した後、クランプで仮固定し、留め金具の下穴を開けます。次にTEXビス4×16で留め金具を取付します。

※フェンス板裏面の金具取付部は板の中心からずれています。金具取付前にどちらに向けるか決めて、揃えて張るようにしてください。

## ●施工手順⑥ フェンス板張りりと板ハズレ留め工程



フェンス板張りり作業は、金具の片方の溝に板の裏溝を合わせ、その合わせた方の外側に押すようにしながらもう片方の溝に“パチン”と押し込みます。次にゴムハンマーで、全ての板の高さが直線になるように小口を軽く叩いて調整します。

最後に板ハズレ留め用のカラーTEX4×40を板1枚に1本、連結部以外の最下段の胴縁箇所に板正面から留めます。